

September 2023
NHK Symphony Orchestra, Tokyo



終演時のカーテンコールを撮影していただけます



コンサート終演時、舞台上のカーテンコールをスマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。

SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」 「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。

ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

「フラッシュ」オフ設定

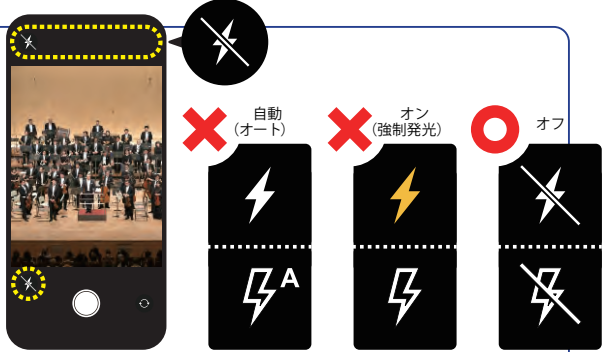
確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

スマートフォンのフラッシュをオフにする方法

多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。

これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。



インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

こちらのQRからアンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

詳しくは53ページをご覧ください



お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、マスクの着用にご協力をお願いいたします

PHILHARMONY

CONTENTS
SEPTEMBER 2023

9

- 3 [追悼] **N響正指揮者 外山雄三さんを悼む**
- 15 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 21 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 27 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 31 [シリーズ] **N響百年史** | 第39回 | **帰ってきた山田耕筰** 片山杜秀
- 35 2023年10月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 37 チケットのご案内
- 38 2023–24定期公演プログラム
- 41 特別公演／各地の公演
- 46 特別支援・特別協力・賛助会員
- 50 NHK交響楽団メンバー
- 51 Information
- 52 曲目解説執筆者
- 53 みなさまの声をお聞かせください！
- 54 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 55 Program A
- 59 Program B
- 63 Program C
- 65 The Subscription Concerts Program 2023–24
- 68 N響関連のお知らせ
- 69 役員等・団友

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援


With Special Support of

岩谷産業株式会社

Iwatani Corporation

 三菱地所株式会社

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

 みずほ銀行

Mizuho Bank, Ltd.

公益財団法人 渋谷育英会

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

NHK交響楽団 正指揮者の外山雄三さんが、
2023年7月11日、慢性腎臓病のため長野県の
自宅で逝去されました。享年92。

外山さんは終生音楽に限りない愛情を注ぎ、クラ
シック音楽発展のために献身されました。

ここに生前の外山さんのN響および日本クラシック音
楽界への貢献に対し、心からの感謝と

哀悼の意を表します。

N響正指揮者 外山雄三さんを悼む

外山雄三(とやまゆうぞう)

1931年生まれ、東京都出身の指揮者・作曲家。1960年のN響世界一周演奏旅行では多くの公演を指揮。1979年NHK交響楽団正指揮者に就任、1985年には国連40周年記念コンサートに招聘されたN響を指揮した。N響以外でも日本国内のプロオーケストラを数多く指揮し、日本のオーケストラ界の底上げに大きな役割を果たした。代表作に『管弦楽のためのラプソディ』。



外山雄三さんを偲ぶ

今村啓一 | 公益財団法人NHK交響楽団 理事長

NHK交響楽団正指揮者の外山雄三さんが、2023年7月11日に亡くなりました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

外山さんとN響との縁は、氏がまだ21歳だった1952年にまで遡ります。当時のN響事務長・有馬大五郎さんが、東京藝術大学作曲科を卒業したばかりの外山さんの才能を見込んで「打楽器練習員」としてN響に迎え入れたのです。ここで外山さんは先輩楽員たちからオーケストラの手ほどきを受ける一方、堪能だった英語を生かして、カラヤンをはじめN響を指揮する世界的指揮者たちの“かばん持ち”をして、その警咳けいがいに触れる機会を得ました。1954年には岩城宏之さんとともに指揮研究員となり、1956年、ベートーヴェン《交響曲第5番》などを振ってN響で指揮者デビュー。1958年から1960年にかけてウィーンに留学し、さらなる研鑽けんさんに励みます。

1960年秋に行われたN響世界一周演奏旅行では、指揮者陣に抜擢ぼつてきされて世界の檜舞台ひのきに立つ一方、このツアーのアンコールで演奏

するために作曲した《管弦楽のためのラプソディー》は聴衆に熱狂的に迎えられ、作曲家としての名声も高めました。

1979年には正指揮者に就任。定期公演や日本各地での公演のみならず、世界一周演奏旅行も含め6回の外国公演を指揮し、同時代作品を積極的に初演して現代音楽の振興にも熱心に取り組むなど、N響の活動を全方位的に支えました。またN響以外の日本各地のオーケストラでも要職を担ってその発展のために献身し、次世代の指揮者たちの育成にも情熱を注ぐなど、その音楽人生はまさに日本オーケストラ界を牽引けんいんするものであった、といっても過言ではないでしょう。

今年1月にはN響制定の作曲賞「尾高賞」の選考委員会で元気な姿をお見せくださり、まだまだご活躍いただけるものと信じていただけて、その訃報に驚きと悲しみを禁じえません。

心からの感謝の気持ちを込め、謹んでお悔やみ申し上げます。



外山雄三氏

外山雄三さんを偲んで

尾高忠明 | NHK交響楽団 正指揮者

外山雄三さんの訃報に、心より哀悼の意を表します。

昨年4月に大阪の演奏会で一緒した際には、かくしゃくとした指揮ぶりに感銘を受けました。楽屋でも親しくお話を交わすことができうれしかったです。

外山さんとは、N響の正指揮者の先輩として、また「尾高賞」の審査員どうしとして一緒にさせていただきましたが、そのたぐいまれな洞察力と明晰な分析力に常に感服していました。それは、外山さんは私のような単純な指揮者ではなく、指揮者であると同時に作曲家であることによるのだと推測しておりました。「尾高賞」の選考では、非常に確固たるご意見をお持ちで、深い洞察の上での貴重なご発言をたびたび聞かせていただきました。

先輩の正指揮者には、ほかにも森正さん、岩城宏之さん、若杉弘さんがいらっしゃいましたが、それぞれまったく違うタイプの指揮者でしたので、後輩として興味深く勉強させていただきました。外山さんはものごとへの深い理解に基づく解釈が突出していらしたと思います。すばらしい音感と明晰な頭脳を併せ持つ稀有な存在でいらしたのです。演奏中の子細な音の変化、リズムの乱れなどすぐに指摘されたので、N響のベテラン楽員たちでさえ震え上がっ



正指揮者称号贈呈式(1979年2月1日、高輪演奏所にて)。右は当時のN響理事長吉田行範氏

ていました。

私の父親・尾高尚忠も外山さんも、作曲家でありN響の指揮者であるところが共通するのかもしれませんが、父がN響にいたときは外山さんはまだ東京藝術大学の作曲科の学生だったのでと思います。けれど

も音楽家でN響の理事・事務長であった有馬大五郎さんから、「小難しいのを書くな。日本の感性を大事にして、まずは日本のモーツァルトをめざせ!」と2人とも言われていたそうなのです。外山さんの作品はその意になかったものが多く、そのうえで叙情性が大変に優れていて、指揮をしていると涙が出てきます。

もう一度、N響の指揮台に立っていただきたかったです。(談)

外山雄三さんの思い出

岡田知之 | NHK交響楽団 元打楽器奏者(公益財団法人NHK交響楽団 理事)

外山雄三さんとは、お互いに若い頃から、さまざまな場面でご一緒に音楽作りをしてきましたので、寂しい思い出です。

最初の出会いは私が東京藝術大学打楽器科の2年生のときに遡ります。N響の打楽器練習員を経て指揮研究員でいらした外山さんは、岩城宏之さんと連れ立って顔を出して、われわれ学生にアドバイスをくれたり談笑されたりしていました。外山さんは1931年生まれ、私の5歳年上でしたので堂々たる先輩のそんな姿に憧れたものでした。

その後1960年にN響に入団したら、ときには外山さんも打楽器奏者として一緒に演奏したり、またチェレスタなど鍵盤楽器を弾くこともたびたびありました。

1960年にN響世界一周演奏旅行のアンコール曲として委嘱されて、外山さんは《管弦楽のためのラプソディー》を作曲し、演奏旅行に先立って、その初演が岩城さんの指揮で行われました。リハーサルに立ち会った外山さんから、西洋楽器によって日本の音を表現するのが意図だと知らされ、馬の



鈴だった楽器をスレイベル(クリスマスのそりで鳴らす鈴)に変更した場面も思い出されます。その鈴は私が担当することになり、演奏法に悩みながら初演を迎えました。

その年の8月から2か月余にわたる世界一周演奏旅行に指揮者として同行したのが外山さんと岩城さんです。現地で当時の常任指揮者のシュヒターさんが合流しました。各地の公演のアンコールで《管弦

楽のためのラプソディー》を演奏しましたよ。外山さんからの「その楽器はこういう風にやったらどうだ」といったアドバイスも思い出されます。

外山さんは1979年には正指揮者になってN響との関係も深まり、私も1992年に退団するまで数多くの公演でご一緒しました。外山さんが指揮されるときは、楽員たちは大変に緊張した

たものです。「譜面をちゃんと読め」とのご指摘から音楽表現に対して確固とした信念をもって臨んでいらした姿勢が思い出されます。

心より哀悼の意を表します。
(談)



N響世界一周演奏旅行・ナポリ公演を指揮する外山雄三氏(1960年10月2日、サンカルロ劇場にて)

NHK交響楽団との軌跡

外山雄三さんと

NHK交響楽団 元常務理事
加納民夫



若き日の外山雄三氏

外山雄三さんと NHK交響楽団の出会い

外山雄三さんは、1952年に東京藝術大学作曲科を卒業されると同時にNHK交響楽団に「打楽器練習員」として入団しました。2年後の1954年4月には、同じ打楽器練習員として生涯の友・岩城宏之(以下、外山さん以外は敬称略)が入団しています。

1926年10月に産声をあげた新交響楽団は、日本交響楽団の名を経て1951年8月からNHKの支援を受けることとなり、NHK交響楽団(以下N響)に改称して再スタートしました。団体の歴史は黎明期から成長期を経て成熟期へと推移しますが、N響は創立25年を機に成長期に入ったのです。当時の事務局は有馬大五郎が事務長を務めており、辣腕を揮っていました。成長期のN響には若い人材が必要と感じた有馬は、学生時代から作品で注目されていた外山さんや藝大仲間で作っていた岩城に目を付け、彼らを半ば強引に入団させたのです。1954年9月、有馬は2人を「指揮研究員」に任じます。外山さんはこうして指揮、作曲、後年には教育にも携わり、第2次世界大戦後の日本の楽壇に大きな足跡と功績を残したのです。1979年2月には、終身職としての正指揮者に就任しています。まさにN響の成長期から成熟期の現在まで、外山さんとN響との互いに啓発し合う極めて密な関係が続いたのです。

63年にわたるN響との共演歴

外山さんの指揮者デビューは1956年9月14日に日比谷公会堂で行われた特別公演で、外



国連40周年記念コンサート(1985年10月25日、ニューヨーク・国連本部総会会議場にて)

山さんと岩城が交互に登壇し、外山さんはラフマニノフ《ピアノ協奏曲第2番》とベートーヴェン《交響曲第5番》を指揮しました。そして研鑽^{けんさん}を積むため、1958年にオーストリアに留学、ウィーン国立音楽大学やザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学で学びます。帰国した1960年、外山さんは、常任指揮者ウィルヘルム・シュヒター、岩城と共に、2か月余に渡る「世界一周

演奏旅行」という大事業の指揮者陣に加わりま
す。この時有馬から、ツアー時のアンコール曲と
して日本民謡を素材とした作品を創るよう頼ま
れます。それが外山さんの代表作のひとつであ
り、今でも日本のオーケストラの海外公演で採り
あげられる《管弦楽のためのラブソディー》です。

外山さんがN響定期公演にデビューしたのは1961年3月13日。以来N響との共演を数多



自作の《交響曲「帰国」》を指揮する外山雄三氏(2012年7月4日、東京・サントリーホールにて)

く重ねましたが、記録によると定期公演37プログラム76公演、海外公演24都市27公演、そして数多くの特別公演および全国各地での公演、放送用録画・録音等、さまざまなシーンで軌跡を残しています。最後の共演は、2019年3月15日にNHKホールで行われた「放送記念日記念式典」で演奏した、ワーグナー《楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲》でした。

外山さんとN響との共演で特に注目されたのは国連創設40周年記念に招聘^{しょうへい}された1985年10月25日の総会議場での「国連デー・コンサート」で、全世界に中継され大きな話題になりました。また2012年7月4日にはサントリーホールで外山さんの作品演奏会「音楽とともに：外山雄三の世界」が愛弟子の広上淳一の指揮で行われ、最終曲の《交響曲「帰国」》(1966/1978改作)は外山さん自身が指揮して大喝采を浴びました。

N響が演奏した外山作品

外山さんの作品はバレエから管弦楽、室内楽、独唱、合唱と幅広いジャンルに渡っています。N響が初めて採りあげたのは1953年12月8日の《小交響曲》。指揮はジャン・マルティノン、世界初演でした。その後、大ヒットした《管弦楽のためのラプソディー》(1960)や《管弦楽のための序》(1964)などを含めて、N響は外山さんの作品を計87回演奏しています。また外山さんは、N響が主宰する作曲賞の尾高賞を《ヴァイオリン協奏曲》(1964年)と《交響曲第2番》(2000年)で受賞しました。

日本の音楽界への貢献

N響で指揮者としてデビューした外山さんは各楽団から注目され、1963年から1967年まで大阪フィルハーモニー交響楽団専属指揮者、1967年から1970年まで京都市交響楽団常任指揮者、1981年から1987年まで名古屋フィルハーモニー交響楽団音楽総監督・常任指揮者、1989年から2006年まで仙台フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、1992年から1996年まで神奈川フィルハーモニー管弦楽団音楽監督を歴任、さらに2016年から大阪交響楽団ミュージックアドバイザーや名誉指揮者を務めるなど、オーケストラ界への貢献は語り尽くせません。また教育者としても1993年から2015年まで愛知県立芸術大学客員教授を務めたほか、東京国際音楽コンクールやチャイコフスキー国際音楽コンクール、聖チェチーリア音楽院国際コンクールなどの審査員も務めています。

外山さんの最後の演奏会は、亡くなる45日前の2023年5月27日に東京芸術劇場で行われたパシフィックフィルハーモニア東京の第156回定期です。公演プログラムはシューベルト《交響曲第5番》と《交響曲第8番「グレート」》という外山さんらしい曲目でした。楽団の報告では「リハーサル中に体調不良となり協議。本番は1曲目は指揮なしで演奏。《グレート》には登場したが演奏中に不調となり控室で一時休養。終演後はステージに戻り挨拶」とあります。まさに最後まで現役音楽家を貫き、最前線で活躍の幕を閉じたのです。

こうした外山さんの長年の総合的音楽活動に対して、各界・各機関から受けた表彰は枚挙にいとまがありません。ご功労に敬意を表するとともに、心より哀悼の意を捧げます。



さあ、感性の出番だ。



電気のチカラで、新たなる喜びを。
先進の電気自動車ニューBMW i5、誕生。

FOR MORE
INFORMATION



世界をつなぐ、あたらしい空へ。



Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER



www.ana.co.jp



ヤマハのフラッグシップヘッドホン
YH-5000SE HEADPHONES
レンタル取扱開始

ロングプラン 新品	月額 13,750円 (税込)	最短レンタル期間6ヶ月～
定額プラン	月額 33,000円 (税込)	最短レンタル期間2ヶ月～

(定額プランは新品・USEDの選択不可、レンタル品の購入不可)



*ヘッドホン本体および付属アクセサリー類





美しい国の、美しい一日がある。



PALACE HOTEL TOKYO

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-1-1 tel 03-3211-5211(代表) www.palacehoteltokyo.com


LEADING
HOTELS


Forbes
TRAVEL GUIDE

18 文化芸術・エンタテインメント・スポーツで心豊かな暮らしと社会を



この活動を広めるために作成した
ロゴマークです

文化芸術・集客エンタメをSDGsの 18番目の目標に

SDGsの17項目には、文化や芸術、エンタテインメントに関する目標が語られていません。ぴあでは、世界の多様な文化の共存・共生こそが、サステナビリティの根源にあるはずだと考え、その18番目の目標として、文化芸術、エンタテインメント、スポーツの必要性を掲げ、心豊かな暮らしと社会のために、あらゆる人々の文化的活動を支援することを提言します。これらは、私たちにとって“なくてはならないもの”であり、同時に、人々の相互理解やコミュニケーションを深め、差別のない社会を作り、世界平和に向けた共感への近道になると考えています。この活動への、皆様からご支援をお願いいたします。

ひとりひとりが生き生きと[※]

ぴあ

※ 1998年に発表した、
当社の企業理念です



PROGRAM

A

第1989回

NHKホール

9/9 土 6:00pm

9/10 日 2:00pm

指揮	ファビオ・ルイージ
ピアノ	マルティン・ヘルムヒェン*
コンサートマスター	篠崎史紀

R. シュトラウス
交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの
愉快ないたずら」作品28 [15']

R. シュトラウス
ブルレスケ ニ短調* [19']

—— 休憩 (20分) ——

R. シュトラウス
交響的幻想曲「イタリアから」作品16
[45']

- I カンパーニャで
- II ローマの廃虚で
- III ソレントの海辺で
- IV ナポリの人の生活

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください



こちらのQRから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profiles

ファビオ・ルイージ(指揮)



1959年、イタリア・ジェノヴァ生まれ。デンマーク国立交響楽団首席指揮者、ダラス交響楽団音楽監督を務める。N響とは2001年に初共演し、2022年9月首席指揮者に就任。ハイドン、モーツァルトからマーラー、R. シュトラウスまでドイツ系を中心とする幅広いレパートリーで、丹念に磨き込んだ「歌」と、圧倒的な情熱で聴き手を虜にしている。

これまでにメトロポリタン歌劇場首席指揮者、チューリヒ歌劇場音楽総監督、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR(中部ドイツ放送)交響楽団芸術監督、スイス・ロマン管弦楽団音楽監督などを歴任。このほか、イタリアのマルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督も務めている。また、フィラデルフィア管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラに定期的に客演し、世界の主要オペラハウスにも登場している。録音には、ヴェルディ、ベッリーニ、シューマン、ベルリオーズ、ラフマニノフ、リムスキー・コルサコフ、マルタン、そしてオーストリア人作曲家フランツ・シュミットなどがある。また、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とは数々のR. シュトラウスの交響詩を収録しているほか、ブルックナー《交響曲第9番》の解釈は高く評価されている。メトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》のレコーディングではグラミー賞を受賞した。

マルティン・ヘルムヒェン(ピアノ)



Martina Bernazi

1982年6月21日にベルリンに生まれたドイツのピアニスト。同地のハンス・アイスラー音楽大学でガリーナ・イワンゾワに、ハノーファー音楽演劇大学ではアリエ・ヴァルディらに師事した。2001年にクララ・ハスキル国際コンクールで優勝。以後、ドイツを代表するソリストとして国際的なキャリアを重ねている。チェリストのボリス・ベルガメンシコフの影響から室内楽への取り組みも熱心だ。グラモフォン・アワードを受賞したベルリン・ドイツ交響楽団とのベートーヴェンのピアノ協奏曲チクルスなど、レコーディングも多い。

N響との共演は11年ぶり。2005年にブラームスの《ピアノ協奏曲第2番》で初共演。以来、ベートーヴェンの《ピアノ協奏曲第4番》と《第5番》、《三重協奏曲》を演奏し、柔らかかど丸みを帯びたタッチから雄大な音楽を紡ぎ出した。

今回演奏するR. シュトラウスの《ブルスケ》は、コンチェルト以上に独奏と管弦楽による密接なアンサンブルが要求される作品。室内楽の現場で培われた経験を生かしつつ、持ち前のテクニックが十二分に発揮される演奏となるだろう。

[鈴木淳史／音楽評論家]

リヒャルト・シュトラウス(1864~1949)は「バイエルンの」作曲家である。プロイセンによってドイツ統一が成されつつあった時期に、シュトラウスはバイエルン王国の首都ミュンヘンで育った。彼の音楽の解放感と闊達な笑いには、オクトーバーフェスト(ミュンヘン名物のビール祭り)的な快楽が満ちあふれている。これは北方ドイツの作曲家たちには見られないものだ。今日のプログラムは、若き日のシュトラウスが次第に自らの本領を見だしていく道程に焦点を合わせている。

R. シュトラウス

交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」 作品28

ホルンはシュトラウスの名刺代わりの楽器である。彼の父フランツはミュンヘン宮廷歌劇場の伝説のホルン奏者だったが、私生児として鐘楼守の叔父に育てられ、10歳にも満たない頃から酒場でいろいろな楽器を演奏していた。大道芸人的というかティル・オイレンシュピーゲル的な民話世界を出自とする人だった。主人公をホルンで描く本作品は、そんな父へのオマージュだったのかもしれない。1889年初演の《交響詩「ドン・ファン」》はシュトラウス最初のブレイクスルーであったが、その後も彼はロマン派的世界苦を完全にはふっきれないでいた。ワーグナーにあまりに呪縛されていたのであろう。翌年の《マクベス》と《死と変容》は重い苦渋に満たされ、大失敗に終わった最初のオペラ《グントラム》(1894年初演)も同様である。そんな暗雲を一掃するように、1895年の《ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》でシュトラウスは底抜けの「笑い」を全開にした。ドイツ・ロマン派的な泣き笑いではない。反権威主義的な乾いた挑発の^{こうしょう}哄笑であり、ニーチェの影響を見ることは難しくない。《ティル》の比類なき独創性は、従来のドイツ・ロマン派の孤独と苦悩のポーズを完全に断ち切った点にある。

《ティル》の構成は極めて標題音楽的である。「むかしむかし」で始まり、ティルが登場し(ホルン)、意地悪く笑って(クラリネット)、そして旅に出る。形式はロンド。毎回違ったいたずらのエピソードをはさみつつ、次の冒険へ向かうティルのテーマが繰り返し戻ってくる。ソナタ形式ではないところがミソだ。ソナタ形式より軽いとみなされがちだったロンドを敢えて使う。堂々巡りで何が悪い? ソナタ的弁証法なんてくそくらえ、人間なんてなんの進歩もなく似たような愚行を繰り返すものなのさ! ——ティルが悲鳴を上げて処刑にされたあと、また冒頭の「むかしむかし」のテーマが戻ってくる。そしてしんみりしている聴衆を^{あざわら}嘲うように、爆笑で曲は閉じられる。

作曲年代	1894年秋～1895年5月6日
初演	1895年11月5日、フランツ・ヴェルナーの指揮、ケルン
楽器編成	フルート3、ピッコロ1、オーボエ3、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、小クラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、太太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、ラチェット、弦楽

R. シュトラウス

ブルレスケ ニ短調

ブルレスケとはお下品な笑劇のことである。のちの《ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》や《ばらの騎士》のオックス男爵など、ブルレスケ表現はシュトラウスの十八番だった。若書きのシュトラウスらしからぬ重い曲ではあるが、本作品冒頭の4台のティンパニによるソロは当時としては型破りであり、彼らしい挑発的な笑いの萌芽を見て取ることができる。作曲はシュトラウスがマイニンゲン宮廷管弦楽団でハンス・フォン・ビューローの助手をしていた1885～1886年ごろ。マイニンゲンはシュトラウスの最初の職場であり、ビューローはとてを彼をひいきにしてくれた。当時のシュトラウスはブラームス信奉者で、分厚いオーケストラにはブラームスのピアノ協奏曲の影響が濃厚である。調性もブラームスの《ピアノ協奏曲第1番》と同じニ短調。ただし楽章形式をとっている点では、のちの交響詩を連想させもする。演奏至難の技巧はシュトラウスの師とっていいビューローの名人芸を想定したものだろうが、初演を打診されたビューローは、ピアノ向きではないし、手が小さい自分には指の間隔が大きすぎる、そもそも「毎小節違う手のポジションが要るややこしい作品を、4週間も練習しろというのですか?」と断りを入れた。初演は剛腕ピアニストとして鳴らしたオイゲン・ダルベール。作曲から5年近くも経った1890年のことだった。同年の出版の話に対してシュトラウスは、お金がほしいのはやまやまだが、とうに卒業した作品を今になって出版するのは気が引けると、友人への手紙で書いている。ビューローはのちに伴奏指揮は務めたが、ブラームスへの手紙で「天才的なところもあるがぞっとする曲だ」と書いている。シュトラウスは同じくマイニンゲン時代に「嬰ハ短調のラプソディー」というピアノ協奏曲も構想したが未完に終わった。かくしてシュトラウスはピアノ・ヴィルトゥオーソ的ジャンルは早々断念し、オーケストラ・ヴィルトゥオーソに自分の領分を探すことになる。

作曲年代	1885～1886年
初演	1890年6月21日、作曲者自身の指揮、オイゲン・ダルベールの独奏
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ピアノ・ソロ

R. シュトラウス

交響的幻想曲「イタリアから」作品16

シュトラウスは「良家のお坊ちゃん」であった。上述のように父フランツはミュンヘン宮廷歌劇場の名ホルン奏者(《トリスタンとイゾルデ》《ニュルンベルクのマイスタージンガー》初演時の第1ホルン奏者!)であり、母はミュンヘンの大ビール会社のお嬢さんだった。当時のヨーロッパの上流家庭には、20歳くらいになると息子に見聞を広めるためのイタリア長期旅行をさせる習慣があり(グランドツアー)、シュトラウスも1886年4月から5月にかけてイタリアに行かせてもらった。ローマとナポリを中心に名所旧跡を見て回り、鮮烈な印象を受けた彼が、帰国後すぐ完成させたのが本作品である。初演には父もホルン奏者として参加、師ビュローも大変気に入ってベルリン・フィルハーモニー管弦楽団での上演に尽力、1899年にはマーラーもウィーン・フィルハーモニー管弦楽団で演奏している。

本作品でシュトラウスは初めて、「自分のトーン」を見つけた。まだブラームス的な4楽章形式ではある。しかし彼ははっきり標題音楽へ舵^{かじ}を切った。そして燃え立つ南方的蠱惑^{こく}を見つけた。第1楽章は全体の序奏であり、シュトラウスの言葉によれば「エステ荘から眺めた灼熱の太陽に燃えるローマのカンパーニャ」を描いたもの。冒頭の長三和音と短三和音の明滅はもう印象派。またハーブ伴奏による吟遊詩人の語りのような弦楽器の燃えるカンタービレは、ベルリオーズの《イタリアの Harold》を連想させる。ドイツ的なものへの訣別^{けつべつ}、そしてラテン的なものへのクレド。第2楽章はソナタ形式で書かれている。シュトラウスの父はウィーン古典派の熱烈な支持者で、息子もその薫陶を受けた。豪華なオーケストレーションをカッコに入れて聴けば、意外なほど古典主義的な音楽である。初期シュトラウスの室内楽作品がメンデルスゾーンのようにであったことが思い出される。そして緩徐楽章である第3楽章は再び印象派的。シュトラウスいわく「風にそよぐ葉、鳥の歌、自然のひそやかな声、海の遠い波、岸辺に届く寂しい歌」を描いたという。木管の半音階的な虹色の輝きは、《ばらの騎士》の銀のバラ献呈の場面などを先取りするシュトラウスの十八番^{おはこ}。タランテラの乱舞である第4楽章は、ヴェスヴィオ登山鉄道のテーマ歌《フニクリ・フニクラ》を自在にパラフレーズしたことで有名である。シュトラウスはこれをナポリ民謡だと思い込んでいたが、作曲者のルイジ・デンツァがそれを知って訴訟沙汰になった。交響曲のフィナーレでこうした俗謡を引用すること自体、ロマン派の真面目くさった交響曲伝統への嘲笑と考えることもできよう。

作曲年代	1886年
初演	1887年3月2日、作曲者自身の指揮、ミュンヘン宮廷管弦楽団、オデオン劇場
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、小太鼓、トライアングル、タンブリン、シンバル、サスペンデッド・シンバル、ハーブ1、弦楽

A

2023, SEPTEMBER

[第1989回]



なにか違うの？

交響曲と交響詩

Symphony & Symphonic Poem

「交響曲」は、いくつかの楽章によって緊密に構成されたオーケストラが主役の楽曲だ。では、今日演奏される「交響詩」と「交響的幻想曲」は？ どうしてわざわざ名称を変えているのだろうか。交響曲の親戚のようなものだろうか。

ご明察！ 交響曲ほど伝統にとらわれていない、もっと「詩」的な、けれどもオーケストラが主役の楽曲、という字面から受ける印象そのままに、作曲者のメッセージを受け取って楽しんでほしい。



ティル・オイレンシュピーゲルに驚く
リヒャルト・シュトラウス
イラストレーション ©IKE

『ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら』

16世紀頃のドイツで出版された民衆本。主人公のティル・オイレンシュピーゲルが、いたずらやとちによって国王や教皇などの権力者をからかったり、行く先々で巻き起こすエピソードがまとめられている。

B

第1991回

サントリーホール

9/20 水 7:00pm

9/21 木 7:00pm

指揮 トン・コープマン

フルート 神田寛明

コンサートマスター 長原幸太◆

◆長原幸太: 広島出身。5歳よりヴァイオリンをはじめ、12歳で東京交響楽団と共演、東京藝術大学入学ののちジュリアード音楽院へ留学。小澤征爾はじめ多くの名指揮者と共演。東京・春・音楽祭では毎年ムーティと共演し、信頼を得ている。ソリスト、室内楽奏者として国内外で活躍するほか、現在は読売日本交響楽団コンサートマスターを務めている。

モーツァルト

交響曲 第29番 イ長調 K. 201 [27']

- I アレグロ・モデラート
- II アンダンテ
- III メヌエット・トリオ
- IV アレグロ・コン・スピート

モーツァルト

フルート協奏曲 第2番 二長調 K. 314

[21']

- I アレグロ・アペルト
- II アンダンテ・マ・ノン・トロppo
- III アレグロ

— 休憩(20分) —

モーツァルト

交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543

[28']

- I アダージョーアレグロ
- II アンダンテ・コン・モート
- III メヌエット:アレグレット・トリオ
- IV 終曲:アレグロ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください

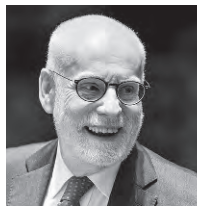


こちらのQRから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

トン・コープマン(指揮)



トン・コープマンは1944年オランダのズヴォレ生まれ、アムステルダム音楽院でオルガン、チェンバロ、音楽学を学んだ。オルガン奏者およびチェンバロ奏者として、J. S. バッハやブクステフーデをはじめとするバロック音楽の優れた解釈者として名声を高め、また指揮者としても1979年に自ら設立したピリオド楽器によるアムステルダム・バロック管弦楽団(1992年には合唱団も併設)とともにバロックから古典派に至るレパートリーを取り上げ、作品の成立した時代のスタイルと奏法に基づく演奏によって高い評価を得てきた。バッハのカンタータ全集やオルガン曲全集をはじめとする膨大な数の録音もよく知られている。一方で近年はベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする欧米の代表的なモダン・オーケストラも盛んに指揮して、古楽演奏家ならではの発想を生かしたアプローチで注目を浴びている。N響にも2017年と2019年に客演してオール・モーツァルト・プログラムを披露、《交響曲第40番》《第41番「ジュピター」》《レクイエム》などの名演を聴かせた。定期公演には初登場(2021年に予定されていたが、コロナで実現しなかった)となる今回も曲目はすべてモーツァルトで、コープマンらしい小気味よい躍動感あふれる演奏が期待される。N響首席フルート奏者の神田寛明との協奏曲の共演も楽しみである。

[寺西基之／音楽評論家]

神田寛明(フルート)



NHK交響楽団首席フルート奏者。1991年に第5回日本フルートコンベンションコンクールおよび第8回日本管打楽器コンクールにおいて第1位を受賞。1993年に東京藝術大学を卒業し、1995年から1年間ウィーン国立音楽大学に留学。2007年には東京藝術大学大学院を修了。これまでに赤星恵一、金昌国、細川順三、ヴォルフガング・シュルツ、ハンスゲオルグ・シュマイザーに師事している。

N響には1994年に入団し、1999年から首席奏者を務めている。また、ソリストとして九州交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団などにも客演。多数のCDをリリースするほか、教則本の執筆、楽譜の校訂監修や60タイトルにおよぶフルート・アンサンブル作品の編曲を行うなど幅広く活動している。

日本フルート協会特任理事、アジア・フルート連盟東京常任理事。桐朋学園大学教授、大阪芸術大学客員教授、東京藝術大学講師として後進の指導にもあたっている。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~1791)若き日の「三大交響曲」(1770年代前半)と、晩年近くの「三大交響曲」(1780年代後半)をそれぞれ代表する作品。それらをいわば「額縁」とした上で、その間に1770年代後半の協奏曲を挟むという、凝りに凝ったプログラム構成である。そこから聴こえてくるのは、「神童」としてヨーロッパ中に名声をとどろかせたモーツァルトが、さまざまな事柄を学び続け、吸収し続ける「天才」であったという証にほかならない。

モーツァルト

交響曲 第29番 イ長調 K. 201

モーツァルトは少年時代、都合3回にわたり、故郷ザルツブルクをあとにイタリアへの旅をおこなった。そして彼の地でセンセーションを巻き起こしただけでなく、イタリア各地の音楽を吸収し、それを自らの創作活動に活用していったのである。

1772~1773年におこなわれた3度目のイタリア旅行から帰ったあと、矢継ぎばやに書かれた9つの交響曲もそうである。とりわけ1773年の秋から翌1774年の春先にかけて作られた《第25番ト短調》《第28番ハ長調》《第29番イ長調》の3作は、これら一連の交響曲群の中でも格別の水準を保っているものとして、昔から大きな評価を受けてきた。たしかに本日演奏される《交響曲第29番》を聴いても、神童時代に別れを告げ、気鋭の青年音楽家として活躍しはじめたモーツァルトならではの才能と創意があふれている。

例えば、第1楽章の冒頭部分である。交響曲といえば、かつては舞台や演奏会の開幕を告げるべく華々しく始まるのが通例だったところ、そっとささやきかけるような出だしが逆に深い印象を与える。強奏になるのは、ようやく13小節目になってから。しかもこの強奏部分、第1ヴァイオリンの旋律をヴィオラと低弦が2拍遅れで模倣する凝りようだ。

また交響曲がイタリア風序曲から派生したという伝統を汲み、「急—緩—急」の3楽章形式で書かれるのが一般的だったところ、当時はまだ比較的珍しかった4楽章形式に基づいている点も目を引く。しかも交響曲といえばお馴染みのソナタ形式が、第1楽章だけではなく、第2楽章、第4楽章にも出現するのが特徴である。

なおモーツァルトにとって、件の3度目のイタリア旅行こそ、奇しくも彼にとっての最後のイタリア旅行となってしまった。もちろんこの時モーツァルトは、そのようなことを知る由もない。だが、太陽と音楽があふれるイタリアに寄せる懐古の情と、最先端の実験精神がこれ以上ないほど滑らかかつ密接に溶け合い、ここに若きモーツァルトの傑作が生まれた。

作曲年代	1774年4月6日完成
初演	不明
楽器編成	オーボエ2、ホルン2、弦楽

モーツァルト

フルート協奏曲 第2番 二長調 K. 314

超有名曲であるにもかかわらず、成立についてはいまだに不明な点が多い作品だ。曲そのものが作られたのは、1778年と言われている。折しもモーツァルトが故郷ザルツブルクでの宮仕えを一旦辞し、マンハイムで求職活動をおこなっていた時期である。

作品誕生のきっかけとなったのは、マンハイムで活躍していたヴェンドリングという名フルート奏者との出会い。彼の紹介で、モーツァルトは「ド・ジャン」なる人物（おそらくはオランダ出身の裕福な商人であり音楽愛好家でもあったデ・ジョン）と出会い、彼の依頼によって書かれた2曲のフルート協奏曲のひとつが、《フルート協奏曲第2番》である。

ただし《フルート協奏曲第2番》は、これに先立って1777年にザルツブルクで作曲された《オーボエ協奏曲ハ長調》を改作したものではないか、というのが通説となっている。とはいえ、両方とも直筆譜が失われてしまっており、どちらが先に作られたのか結局のところよくわからない、というのが現在判明している状況である。2曲のフルート協奏曲に関し、モーツァルトに対するデ・ジョンからの報酬が元の契約の半額以下にとどまったことから、デ・ジョンが転用を知っていたという推測もできる一方で、モーツァルトが約束の曲数を作らなかったという事情もあるため、成立年代をめぐり真相が未だ謎に包まれている。

いずれにせよ、巷間フルート嫌いだったと伝えられるモーツァルトだが、当時発展途上の状態だったにもかかわらず、この楽器にそなわった優美さや輝かしさが存分に引き出されている。開放的な響きのなかにソナタ形式で展開されてゆく**第1楽章**は、まさにその典型。曲の冒頭ヴァイオリンによって提示され、やがてフルート独奏が受け継ぐことになる上行音型の旋律は、マンハイムで熱烈な恋に落ちたモーツァルトの青春の息吹そのものといってもよい。

と思えば、緩徐楽章にあたる**第2楽章**では、一転して雅やかな哀しみに満ちた調べとなり、ここではフルートの切々とした音色が^{きこ}えわたる。**第3楽章**は、ふたたび^{いきいき}活き活きとした楽想となり、遊戯性に満ちた音楽が次々と出現する。18世紀後半の音楽にそなわっていた「遊びの精神」が、このうえなく発揮された楽章だ。

作曲年代	1778年
初演	不明
楽器編成	オーボエ2、ホルン2、弦楽、フルート・ソロ

交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543

モーツァルトの晩年は貧困と病のなかにあった、ということがかつて盛んに言われていた。だが近年の研究によれば、そうした状況はあくまで想像の域を出ず、むしろ、晩年になればなるほど彼が旺盛な活動をくり広げようとしていたことが明らかにされている。

そうした「モーツァルト伝説」の転換を物語る典型が、「後期三大交響曲」(《交響曲第39番》《第40番》《第41番》)をめぐる見解の変化である。なにしろこれらの作品は、1788年初夏に作曲されたということこそ分かっているものの、初演されたという記録がない。

そこで、尾羽打ち枯らした晩年のモーツァルトが、初演のあてもなくこれらの傑作を作ったと長年考えられてきたのだが、実は作曲の直後、ウィーンで催された夏の野外音楽会でまとめて演奏されたのではないか、という見方が生まれている。

特に、その冒頭を飾る《第39番変ホ長調》の場合、かつて19世紀には「白鳥の歌」という呼称が与えられていたこともある作品だが、その根底に滾っているのは、諦観や告別の情ではなく、むしろ旺盛な実験精神ではないか。

そもそも「交響曲」というジャンルは、もともと劇の開幕ベル代わりに演奏される序曲から派生してきたものだったことは、《第29番》の解説中でもふれたとおりだ。そうした交響曲の性格付けは、モーツァルトの時代にあってもほぼ変わらず、演奏会の幕開けに第1楽章が朗々と演奏されるという習慣が存在していた。というわけで、この作品の第1楽章の序奏も、祝祭的な輝きを象徴する変ホ長調を基に華々しく始まる。……にもかかわらず、その長さは尋常ではない。つまり、当交響曲のみならず、3つの連作交響曲の幕開けを飾る、特別な序奏とも考えられる。

第4楽章も、野心的である。第1楽章と同様ソナタ形式なのだが、冒頭にヴァイオリンによってくり出される第1主題から派生する形で、(本来であれば第1主題と対照的な性格となるはずの)第2主題が作られているからだ。

つまり、ひとつのテーマが途切れることなく続いてゆくという仕掛けにほかならない。いわゆる「常動曲」というジャンルに近いが、常動曲はラテン語で「Perpetuum mobile」であり、「永久機械」という意味にもなる。永久機械とは、外部からのエネルギーを受け取ることなく動き続ける装置のことであって、モーツァルトの同時代にはその実現に向けてさまざまな実験がくり返されていた。そんな時代の動きを、音楽のなかに反映させたのが、文字通りこの楽章だったとはいえないだろうか。

作曲年代	1788年6月26日完成
初演	不明
楽器編成	フルート1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

B

2023, SEPTEMBER

【第1991回】



ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

クラシック音楽界で
一番有名な作曲家！

5歳には作曲をしていたという神童モーツァルト。そんな天才少年の才能をさらに伸ばすべく、父親レオポルトはあらんかぎりの情熱をそいだという。インターネットはもちろん、テレビもラジオもない時代。成長の糧となるような幅広い体験をさせながら、世間にも名声を広めるべく、モーツァルトは父親に連れられて、6歳から演奏旅行に出かけ、各地の王侯貴族の前で御前演奏を披露していた。

“前座”の交響曲

現代の私たちにとって「交響曲」は演奏会のメイン・プログラムだが、18世紀当時は人気歌手による歌や、人気奏者による協奏曲などが公演の花形だった。ソリストのいない「交響曲」は、いわば前座として演奏されるような作品。しかしそんな「交響曲」も、天才作曲家モーツァルトの手にかかると新たな魅力をまとうように。



作曲をするモーツァルト
イラストレーション ©IKE

PROGRAM

C

第1990回

NHKホール

9/15 金 7:30pm

9/16 土 2:00pm

指揮

ファビオ・ルイージ | プロフィールはp. 16

コンサートマスター

西村尚也◆

◆西村尚也:名古屋出身。4歳でヴァイオリンを始め、マンハイム国立音楽大学を最優秀の成績で卒業。これまでにバリ管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団などにゲスト・コンサートマスターとして招かれている。ハンブルク交響楽団第1コンサートマスターを経て、現在マインツ州立管弦楽団の第1コンサートマスター。

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

15日(金)6:45pm~/16日(土)1:15pm~

クラリネット:松本健司 ヴァイオリン:高井敏弘、田中晶子 ヴィオラ:飛澤浩人 チェロ:辻本 玲

コントラバス:西山真二*

ペールマン/クラリネット五重奏曲 第3番 変ホ長調 作品23—第2楽章*

(伝 ワグナー/クラリネットと弦楽のためのアダージョ 変ニ長調)

ブラームス/クラリネット五重奏曲 ロ短調 作品115—第3楽章

*演奏はご自身の座席でお楽しみください。

*演奏中の客席への出入りは自由です。

ワーグナー(フリーヘル編)

楽劇「ニーベルングの指環」

—オーケストラ・アドベンチャー—

[64']

I 前奏曲

II ラインの黄金

III ニーベルング族

IV ワルハラ城

V ワルキューレの騎行

VI ウォータンの別れと魔の炎の音楽

VII 森のささやき

VIII 英雄ジークフリート

IX ブリュンヒルデの目覚め

X ジークフリートとブリュンヒルデ

XI ジークフリートのラインの旅

XII ジークフリートの死

XIII 葬送行進曲

XIV ブリュンヒルデの自己犠牲

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは53ページをご覧ください



こちらのQRから

アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

だれもが一度は全曲に挑戦したいと思うはずのワーグナーの四部作《ニーベルングの指環》。約15時間の超大作を聴きとおすのはたしかに至難の業だが、その音楽世界を手軽に愉しむため、数多くの交響的な編曲が編まれた。フリーヘル編曲は作品のストーリーと流れを重視した自然な作りが特徴で、多くの演奏機会を得ている。メトロポリタン歌劇場などで《指環》を率いたルイーダが、類い希な練達まねのオペラ指揮者であることが、今回も実証されることだろう。

ワーグナー(フリーヘル編)

楽劇「ニーベルングの指環」 —オーケストラ・アドベンチャー—

リヒャルト・ワーグナー(1813~1883)は、1848年から構想・作曲した畢生ひっせいの大作《ニーベルングの指環》を、ドイツ・バイエルン国王ルートヴィヒ2世の援助を受けつつ、四半世紀後について上演へとこぎつける目処を得た。1871年4月16日、ワーグナーはバイエルン王国北部のバイロイトを訪れ、街が醸し出す雰囲気^{ついで すみか}をいたく気に入り、この地にみずから理想とする劇場の建設、そして終の棲家を作る決意を固めた。数々の苦難を乗り越えた末に、バイロイト祝祭(バイロイト音楽祭)は、1876年8月13日の開幕を迎えた。

四部作《ニーベルングの指環》は、前夜祭の《ラインの黄金》を皮切りに、第1夜《ワルキューレ》、第2夜《ジークフリート》、第3夜《神々のたそがれ》と続き、上演には4晩、計14時間以上を要する。作品全体は、北欧神話から構想を膨らませ、世界を支配することのできる指環をめぐる、神々の世界の生成・没落、英雄ジークフリートの死を描く壮大な規模へと発展した。

独立した聴きどころとしては〈ワルキューレの騎行〉などが有名だが、最近では、四部作の世界観を一気に味わうべく、その聴きどころをつなげる編曲が数多く登場している。今回演奏される編曲は、ヘンク・デ・フリーヘルが1991年に手がけたもの。1953年生まれまねのフリーヘルは、ロッテルダム音楽院で打楽器と作曲を学び、1984年からはオランダ放送フィルハーモニー管弦楽団の打楽器奏者として活躍した。全体は14の場面から構成され、それぞれにフリーヘルまねの命名(とそれ以前からの慣習的な命名)による標題が付けられている。

冒頭の《ラインの黄金》において、ライン川からの世界の生成を変ホ長調で描く〈前奏曲〉は、まさに遠大な世界観を持ち合わせる四部作の幕開けにふさわしかろう。ラインの乙女たちが川底で護る〈ラインの黄金〉を、〈ニーベルング族〉のアルベリヒが強奪し、

世界を支配することのできる指環を作る。大神ウォータンはこの指環をアルベリヒから奪い取る。落成した〈ワルハラ城〉へ意気揚々と神々は入場するが、指環は城を作った巨人族に渡してしまい、その前途には早くも暗雲が立ち込めている(《ワルキューレ》第2幕最後の音楽が接続に用いられている)。

《ワルキューレ》で、ウォータンは指環を取り戻すべく自身の血を引く勇者を生み出す一方で、第3幕の前奏曲を兼ねる〈ワルキューレの騎行〉は、ニーベルング族の復讐に備え、戦場で斃れた人間の英雄をワルハラ城へと連れてくるウォータンの愛娘、9人のワルキューレたちが、天空を馬で駆け回る勇壮な音楽。ウォータンの命令に背いたそのうちのひとり、最愛のブリュンヒルデに罰を与えるため、この世でもっとも強い英雄しか目覚めさせることのできない深い眠りを与える。愛娘に別れを告げざるを得ないウォータンの苦悩を、第3幕最後の〈ウォータンの別れと魔の炎の音楽〉が描き出す。

深い森の中で育った、大神の血を引く人間の英雄、3作目の主人公《ジークフリート》は、自分が生まれる前に亡くなった母親、そしてまだ見ぬ女性に想いを馳せる。草木のざわめき、小鳥の鳴き声、あらゆる〈森のささやき〉が聞こえる自然の世界は、都会の工業的な文明の対極にあるものとして、ワーグナーが愛してやまぬものでもあった。やがて〈英雄ジークフリート〉によって、指環を持っていた巨人(大蛇)は斃され、英雄がはじめて目にする女性、ブリュンヒルデが目覚ます(〈ブリュンヒルデの目覚め〉)。ヴァイオリンやハーブが描くのは、陽の光に溢れた輝かしさと煌びやかさ。

《神々のたそがれ》冒頭では、〈ジークフリートとブリュンヒルデ〉が互いの愛を確認し、さらなる冒険の旅に出かける(〈ジークフリートのラインの旅〉)。だが、指環を狙うアルベリヒの息子、ハーゲンの奸計にかかり、〈ジークフリートの死〉がもたらされる。荘重な〈葬送行進曲〉。持ち主に呪いをもたらす指環は、〈ブリュンヒルデの自己犠牲〉によって、もとの持ち主であるラインの乙女たちのもとへ。神々が作った世界の破滅、そしてブリュンヒルデの愛によって新しい世界が生成されることになる。

作曲年代	1848年～1874年11月 [フリーヘル編曲版]1991年
初演	[全曲初演]1876年8月13日《ラインの黄金》、14日《ワルキューレ》、16日《ジークフリート》、17日《神々のたそがれ》 [フリーヘル編曲版]1992年2月7日、エド・デ・ワールト指揮、オランダ放送フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、ピッコロ1、オーボエ3、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3(小クラリネット1)、バス・クラリネット1、ファゴット3、ホルン8(ワーグナーチューバ4)、トランペット3、バス・トランペット1、トロンボーン3、コントラバス・トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ2、ハーブ4、グロッケンシュピール、フィールドラム、タムタム、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、金床、弦楽

C

2023
SEPTEMBER
[第1990回]ワーグナーとバイロイト祝祭劇場
イラストレーション ©IKE

オペラ界の巨人

リヒャルト・ワーグナー

Richard Wagner (1813–1883)

ワーグナーは歌手や俳優の親兄弟たちに囲まれて育ち、少年時代は演劇や文学に熱中していたという。早くから文才もみせており、のちに自分でオペラの台本も書くように。彼の残したオペラや楽劇は、音楽・台本・舞台が混然一体となった唯一無二の境地を切り拓いていく。そんなワーグナーが、満を持して世に送り出した壮大な作品が《ニーベルグの指環》だ。

バイロイト祝祭劇場

ワーグナー作品「だけ」を上演するオペラハウスとして、1876年に開館。夏の音楽祭のあいだだけ使われ、公演は世界中から希望者が集まる大イベントとなっている。指揮者や出演者も注目を集め、公演は世界各地で放送・放映され、多くのクラシックファンを魅了している。

N響百年史

第三十九回 帰ってきた山田耕筰

片山杜秀

Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしても馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。リストラによって、近衛秀麿と新響楽員たちとの確執が深まるのと同様並行するように、山田耕筰との和解が進みます。

山田からのアプローチ

1931(昭和6)年10月25日、神宮外苑の日本青年館での新交響楽団第96回定期公演(当時は予約演奏会)は、ひとつの事件だった。指揮者として山田耕筰が定期公演に初登場したのだ。

新交響楽団の歴史は、山田耕筰と近衛秀麿の提携によって成り立っていた日本交響楽協会という名の交響楽団から、おおかたの楽団員が脱退し、近衛を担いで新しいオーケストラを作ったところから始まる。日本交響楽協会が旧交響楽団なら新しいオーケストラは新交響楽団だ。しかも古いオーケストラから新しいオーケストラに脱皮しなければならないと楽団員たちが考えた理由は、山田が楽団運営に大きな権力を持ってしばしば独断専行する体制のもとでは経理が不明朗になりがちで、利益が十分に楽団員に還元されていないのではないかという不満と、指揮者としての山田は古い感性と技術に立っていて近衛はその逆で新しいのだという音楽的価値判断が相まってのものだったろう。山田のもので日本交響楽協会はそのあとも存続していたが、基礎となるメンバーはごく少数で、常設のオーケストラの体裁を成しているとはいえなかった。山田がコンサートを開くときに、奏者の大半を臨時雇いでまかなって、にわか出現する楽団と化していた。そんな山田が新交響楽団の指揮台に呼ばれることはありえない。そのはずだった。

ところが雪解けが始まった。きっかけは山田の側からのアプローチである。コロナ事件の前年、1930(昭和5)年9月2日のこと。山田に近い音楽評論家、牛山充が山田の代人として新交響楽団に仕事の依頼を持ってきた。かなり急な話だ。翌10月の6日から4日連続で、日比谷

公会堂を借り切って、山田の楽壇生活25周年を記念する演奏会を、事実上、山田自らが主催しておこなう^{てはず}手筈が整ったという。山田が東京音楽学校（現東京藝術大学音楽学部）に在学中に作品を発表するようになったところから数えると、1930年が四半世紀になるというわけだ。会場に選ばれた日比谷公会堂は1929（昭和4）年、日比谷公園内に完成したばかり。普通選挙法時代に相応しい演説会や集会の場として期待されるホールだが、音楽会も開ける。山田と深い^{ゆかり}縁のある後藤新平の発案による建物でもある。山田は早速、そこで帝都の耳目を集めきる大掛かりな催事を打ちたかった。相変わらずの山師気質なのであろう。そこに新交響楽団も出てくれないか。さすがに山田本人がいきなり新交響楽団の事務所を訪ねるわけにもいかない。そこで代人が現れた。

たしかにかなり決定的に仲たがいしたいきさつがあるにせよ、日本交響楽協会からの新交響楽団の分裂劇からはほぼ4年が経過している。日本の演奏界の雄である近衛と新交響楽団のコンビと、オーケストラ指揮者としての立場を十分に確保できなくなっているとはいえ相変わらず本邦楽壇の大作作曲家として他を断然引き離している山田が、冷戦状態を続けているのは、日本のクラシック音楽界としてはさすがにうまくないだろう。タイミングについても山田の側には計算があった。近衛は9月のうちに洋行する。この旅にはすでに触れた。フルツェングラーやエーリヒ・クライバーやヒンデミットとコンタクトを取ること大いに啓発されて、新交響楽団にばかり関わってしばらく内向きになっていた近衛の意識を、もとの念願であった本場欧州での活躍を夢見るほうに引き戻し、結果、近衛の新交響楽団に対する態度も大きく変わっていき、1931年のコロナ事件から1935（昭和10）年の近衛と新交響楽団

のコンビ解消へとつながってゆく、重大な旅だ。とにかくしばらく近衛は日本を空ける。山田の記念演奏会のときにはもういない。よって近衛が恩師でもある山田の記念演奏会に出たいか出たくないかという問題はスルーできる。新交響楽団だけが来てくれればいい。そして山田の指揮で山田の曲を演奏する。そうやって復縁をアピールしたい。山田の腹づもりであった。

復縁

近衛はどうしたか。反発した。9月10日付で山田に手紙を出し、その全文を新交響楽団の機関誌『フィルハーモニー』の10月号に発表し、公開書簡とした。近衛は言う。むろん自分の一存でなく、団内できちんと相談して、今回は断ることにしたのだと。急すぎるので、今さらスケジュールに入れられない。だいたい山田は、苦勞の多いオーケストラ運動から身を引いて、作曲に集中するはずではなかったのか。それなのに新交響楽団結成後の山田の発表しているのは小曲ばかりだ。もっと大作を世に問うてほしい。それを近衛の指揮で新交響楽団が演奏する。そうやって縁を結び直すのが自然ではないか。今度の記念演奏会に大編成の交響楽団が必要なら、日本交響楽協会の名でメンバーを集めておやりになればよい。

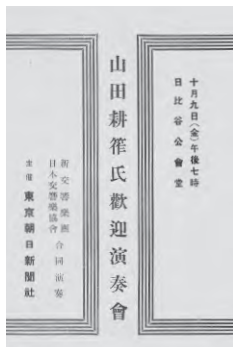
ところがこの近衛回答は、解釈のしようによっては逃げ道があった。新交響楽団としては出演に応じぬと述べているが、新交響楽団のメンバーを出さないとはまでは確言していない。日程的にも不可能ではない。米国の作曲家で指揮者、ヘンリー・ハドリー^{しょうへい}を招聘してその自作自演を含む第74回定期公演がおこなわれるのは10月5日。山田のコンサートは10月6～9日

で、華やかな大管弦楽を予定するのは最終日だから、出たい者がおれば練習から十分に参加できる。はて、実際はどうなったか。10月9日の山田の演奏会に出演した臨時混成のオーケストラの主力は、新交響楽団のメンバーだったという。かなり大勢が出演したと伝えられる。要するに事実上は新交響楽団がステージに乗ったようなものであった。山田は感激し、楽団員たちもかつて見捨てた山田との再会を喜んだ者が多かったという。この演奏会が、翌年のコロナ事件で、近衛が楽団員を腕の良い者に入れ替えたいというなら近衛を追い出すことも辞さずと、強気に振る舞ったメンバーの現れたことの伏線であったともいわれる。いざというときは山田を再びひっぱり出せばよいというわけだ。

とにかくこのようにして、1930年10月の山田の記念演奏会で、山田と楽団員の復縁はほぼ成ったといえる。お次は山田と近衛の和解だ。そこで再会の方が、誰の仕込みか、ただちに巧みにコーディネートされた。場所はハルピンである。近衛が前年秋の洋行からシベリア鉄道経由で帰国途中の1931年2月17日。山田はというと、近衛に対抗するかのように、やはりシベリア鉄道経由で欧州に向かおうとしていて、ハルピンで一休みしていた。というか恐らくは近衛の帰国の旅程を知らされていて、ハルピンで待ちかまえていたのである。再会はあくまでも偶然を装って、マスコミの取材も入れておこなわれた。2人は表向きはとても仲良く河豚料理を食べた。山田と近衛が仲直り! きっと新交響楽団にも山田が出演するようになる! 新聞雑誌がただちに報道した。それから山田はパリに行った。新作オペラ・バレエ《あやめ》を同地で世界初演する触れ込みだったが、結局うまくいかなかった。その代わり、後藤新平のコネクションもあってコンタクトのあったソ連で、モスクワ、レニングラード、バクー、オデッ

サなどのオーケストラを指揮した。ソ連の作曲家たちとも交流した。若きショスタコーヴィチとも会った。帰国したのは8月17日である。

その翌々月が山田の新交響楽団定期公演への初登場となる。が、いきなりそこへ行くのではない。山田の帰国前に、山田の帰国歓迎演奏会を、近衛秀麿指揮新交響楽団も出演して催されるお膳立てがまずできていた。時は10月9日、所は日比谷公会堂。ちょうど1年前の同日、同じ場所で、新交響楽団のメンバーが多数出演して、山田の楽壇生活25周年記念演奏会シリーズの掉尾を飾る公演がおこなわれたことに、わざと合わせたのだ。なぜだろうか。山田の面子を保つかたちで、山田と近衛&新交響楽団の最終的和解を広く世間に見せつけるためである。1年前には、近衛は強気で高飛車だった。自分も洋行して不在の時期に、因縁のある山田の記念演奏会に新交響楽団は正式には出せないと思っていた。半年後のハルピンでの再会も、山田は乗り気だったろうが、近衛のそのときの本心はよくわからない。だが、それからまた半年以上経った秋になると、近衛が明らかに山田に対して折れてきている。帰国歓迎演奏会で近衛は、山田の代表作のひとつ、《交響曲「かちどきと平和」》を指揮した。そうやって、まずは弟子の近衛が師匠の山田に日比谷公会堂で礼を尽くし、その答礼として山田が半月後に日本青年館での新交響楽団の定期公演に出演するという恰好が作られた。日比谷公会堂は、少なくとも山田の感覚では、深くつながる後藤新平の建てたホールだから、山田の縄張りであり、日本青年館は、近衛の兄の近衛文麿の顔のきくホールだから、近衛の縄張りである。近衛が山田の縄張りに挨拶に向いてから、山田が近衛の縄張りに顔を出す。これで山田の男としての顔が立ったのであろう。



1931年10月9日に行われた「山田耕筰氏歓迎演奏会」のパンフレット。

表紙には「新交響楽団 日本交響楽協会 合同演奏」と書かれ、プログラムにも山田耕筰(交響曲「かちどきと平和」)を指揮する近衛秀麿の名前が書かれている

近衛の戦略

しかも山田の定期公演でのプログラムは近衛に対して挑戦的であった。近衛は1931年春に帰国後、欧州で仕入れた新しいレパートリーを紹介する路線を打ち出し、オネゲル、ヒンデミット、クルト・ヴァイルなどを取り上げていたが、いずれも短め、小さめの曲であった。ところが山田はソ連から、1926年に初演されたショスタコーヴィチのモダンな大作、《交響曲第1番》を持ってきた。山田は最先端の潮流にも通じ、近衛に比べても決して古びていないという宣言である。さらに、完成の暁には日本最初のグランド・オペラとなるはずの《黒船》からの抜粋も披露し、前年に近衛がなした、最近の山田は小曲ばかりとの批判に応酬した。山田としては久々に近衛をやり込めたつもりになって気分爽快であったろう。

それにしても、なぜ近衛は急にかくまで山田に折れたのか。師への愛情が復活したというようなことでもあるまい。やはり山田が洋行しているあいだに起きたコロナ事件のせいであろう。オー

ケストラの技量向上をはかるべく、メンバー入れ替えのそぶりを見せて、楽団員を動揺させ、その反発を招き、約3分の1を辞めさせることになり、その代わりに上海から西洋人演奏家を大量雇用しようとして、優秀な日本人の新たなメンバーを入れようとしても人材難でままならない。結局、コロナ事件はオーケストラの技量も近衛の楽団に対する求心力も、低めたとまではいわないが、必ずしも高めることにつながらなかった。オーケストラはかえって危機の時代に突入し、近衛も、信頼回復、和の精神、大同団結を重んじ、専横と思われる要素を少しでも減らさねば立ちゆかない状況に立ち至っていた。山田との和解はそこでとられざるを得なかった、近衛なりのしたたかな戦略のひとつであったろう。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾法学部教授。2008年、『音盤現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

次回予告

山田耕筰との雪解けを経て、新交響楽団は第100回の節目となる定期公演へ。そして求心力の弱まった近衛秀麿の退陣へと至ります。

2023年10月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテットとN響の付き合いも、ついに43年目を迎える。恒例の秋の来日を心待ちにされているファンの方も多いのではないか。

菜食主義、旅先においても規則正しい生活リズム、そして信仰心と、いつまでも変わらぬ音楽への情熱。これらすべてが、96歳の巨匠の驚異的なヴァイタリティの源になっている。「N響100周年(2026年)を一緒にお祝いしたい」と言ったら、「ウィーン・フィルとは、私の120歳のバースデー・コンサートを開く約束をしている」という答えが返ってきた。いちばんの元気の秘密は、この前向きな発想にあるのかも知れない。

レンガを一枚一枚積み重ねていくように……
ブロムシュテットがブルックナーで築く音の大伽藍

[Aプログラム]はブルックナー《交響曲第5番》、80分超の大曲である。ブロムシュテットのリハーサルで印象的なのは、モチーフの描き方に徹底してこだわる姿勢である。一音一音の長さや強さを決めてゆるがせにせず、そ

れがすべての奏者に共有されるまで、粘り強く繰り返していく。まるでレンガを一枚一枚、丁寧に積み重ねていくかのようだ。この曲のように、いくつかのモチーフが絡み合い、幾度となく繰り返されて、壮大なクライマックスを築いていくタイプの作品では、こうした音楽作りが、特に大きな効果を発揮するに違いない。レンガの積み重ねの集大成として現れる大伽藍^{だいがらん}は、果たしてどんな姿をしているのだろうか。昨年のマーラー《第9番》に続き、単に名演と呼ぶ以上の何かが生まれる予感がする。

巨匠が格別の思いを寄せる ブラームスの“秋の交響曲”

ブラームスの4つの交響曲のうち、ブロムシュテットは[Bプログラム]で演奏する《第3番》に、格別の思いを持っているようだ。濃い情感をたたえながら、すべての楽章が弱音で終わるこの曲を、彼は“秋の交響曲”と呼び、その美しさを語り始めたら、とどまることを知らない。2019年のリハーサルでは、曲の最後のピアノシモで、音量のバランスをいかに取る

かに心を砕いていた。職人的な技術の裏づけがあっはじめて、名曲は真の魅力を明らかにするのだ。

ベートーヴェン《ピアノ協奏曲第5番「皇帝」》のソリストは、ノルウェー生まれのレイフ・オヴェ・アンスネス。彼が弾くシューベルトのソナタについて、村上春樹は「深い森の空気を胸に吸い込んだときの、清新でクリーンな植物性の香りが、しっぽの先まで満ちているのだ」と書いているが、まさにその通りだと思う。数年前に録音された《皇帝》でも、アンスネスの柔らかなタッチと、クリアな音の粒の見事な配合を聴くことができる。同じ北欧出身どうし、互いの音楽性に敬意を抱くマエストロとの共演に期待が膨らむ。

スコアに忠実に向き合う
ブロムシュテットの北欧音楽

[Cプログラム]ニルセン《アラジン組曲》
は、もともと劇付随音楽として作曲された。

ゴージャスなく(祝祭行進曲)にせよ、エキゾチックな舞曲にせよ、聴き手に情景を連想させる描写力は圧倒的だ。中でもユニークなのは〈イスファハンの市場〉。4群に分かれたオーケストラがそれぞれ独立して演奏し、市場の雑踏を表現する。ブロムシュテットと親交の深かったジョン・ケージの「偶然性の音楽」の先駆けとも言える斬新さ。マエストロが好んで取り上げるのは、このシーンがあるからと言ってよい。

シベリウス《交響曲第2番》は、ブロムシュテットが最も得意とする、北欧の代表的な名曲。ベートーヴェンの《運命》同様、「闘争から勝利へ」の展開を持ち、それを強調した演奏も多いが、マエストロはおそらく、スコアに忠実であることを第一に心がけるはずだ。この数年、彼が指揮するマーラーやチャイコフスキーに接した私たちは、こうしたやり方が、誇張された表現以上に雄弁となり得ることを知っている。

[西川彰一/NHK交響楽団 芸術主幹]

A 10/14 土
6:00pm
10/15 日
2:00pm

NHKホール

ブルックナー／交響曲 第5番 変ロ長調
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット



B 10/25 水
7:00pm
10/26 木
7:00pm

サントリーホール

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」
ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ピアノ：レイフ・オヴェ・アンスネス



C 10/20 金
7:30pm
10/21 土
2:00pm

NHKホール

ニルセン／アラジン組曲 作品34—「祝祭行進曲」
「ヒンドウの踊り」「イスファハンの市場」「黒人の踊り」
シベリウス／交響曲 第2番 二長調 作品43
指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット



チケットのご案内(定期公演 2023年9月～2024年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～27%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	発売中
	シーズン会員券(Winter)	2023年10月12日[木](定期会員先行)／2023年10月17日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2024年2月7日[水](定期会員先行)／2024年2月16日[金](一般)

料金(税込)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間 会員券 (9回)	Aプログラム	¥69,300 (¥7,700)	¥58,050 (¥6,450)	¥45,090 (¥5,010)	¥36,720 (¥4,080)	¥28,800 (¥3,200)	¥8,100 (¥900)
	Bプログラム	¥74,970 (¥8,330)	¥64,260 (¥7,140)	¥51,255 (¥5,695)	¥41,310 (¥4,590)	¥33,660 (¥3,740)	¥9,720 (¥1,080)
	Cプログラム	¥57,780 (¥6,420)	¥50,760 (¥5,640)	¥40,500 (¥4,500)	¥32,760 (¥3,640)	¥25,020 (¥2,780)	¥7,200 (¥800)

券種		S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン 会員券 (3回)	Aプログラム	¥24,360 (¥8,120)	¥20,310 (¥6,770)	¥15,870 (¥5,290)	¥12,870 (¥4,290)	¥10,140 (¥3,380)	¥3,300 (¥1,100)
	Cプログラム	¥20,340 (¥6,780)	¥17,910 (¥5,970)	¥14,250 (¥4,750)	¥11,520 (¥3,840)	¥8,790 (¥2,930)	¥3,000 (¥1,000)

()内は1公演あたりの単価

※今シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます(A-Cプログラムのユースチケット定期会員券[D席]料金に変更はありません)。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	発売中
	12・1・2月	2023年10月26日[木](定期会員先行)／2023年10月29日[日](一般)
	4・5・6月	2024年2月28日[水](定期会員先行)／2024年3月3日[日](一般)

※今シーズンより1回券の料金を改定させていただきます(E席、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

※「WEBセレクト3+」の販売は前シーズンをもって終了いたしました。

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。1回券はすべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>

お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am～5:00pm

定休日: 土・日・祝日

- 主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



2023-24定期公演プログラム

2023 09	A	第1989回	シュトラウスの若き日の名作でルイーゼが故郷・イタリアを活写する R. シュトラウス/ 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」作品28 R. シュトラウス／ブルレスケ 二短調* R. シュトラウス／交響的幻想曲「イタリアから」作品16 指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:マルティン・ヘルムヒェン*	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400
		9/9(土) 6:00pm 9/10(日) 2:00pm	NHKホール	
	B	第1991回	“古楽の達人”の自由な精神がモーツァルトに新たな命を吹き込む モーツァルト／交響曲 第29番 イ長調 K. 201 モーツァルト／フルート協奏曲 第2番 二長調 K. 314 モーツァルト／交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543 指揮:トシ・コブマン フルート:神田寛明(N響首席フルート奏者)	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
		9/20(水) 7:00pm 9/21(木) 7:00pm	サントリーホール	
	C	第1990回	オペラの達人が本領発揮! ルイーゼが迫るワーグナーの真髄 ワーグナー(フリーヘル編)／楽劇「ニーベルングの指環」 —オーケストラ・アドベンチャー—	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
		9/15(金) 7:30pm 9/16(土) 2:00pm	NHKホール	指揮:ファビオ・ルイーゼ
2023 10	A	第1992回	ブロムシュテットとN響が築く荘厳な音の伽藍 ブルクナー／交響曲 第5番 変口長調	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400
		10/14(土) 6:00pm 10/15(日) 2:00pm	NHKホール	指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット
	B	第1994回	巨匠の愛奏曲 プラームス(第3番)でその至芸を味わう ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 プラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ピアノ:レイフ・オヴェ・アンズネス	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
		10/25(水) 7:00pm 10/26(木) 7:00pm	サントリーホール	
	C	第1993回	ニルセン&シベリウス ブロムシュテット十八番の北欧プログラム ニルセン／アラジン組曲 作品34 —「祝祭行進曲」 「ヒンドウの踊り」「イスファハンの市場」「黒人の踊り」 シベリウス／交響曲 第2番 二長調 作品43	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
		10/20(金) 7:30pm 10/21(土) 2:00pm	NHKホール	指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット
2023 11	A	第1997回	フェドセーエフが愛おしむロシア舞台音楽の傑作たち スヴィドフ／小三部作 プロコフィエフ／歌劇「戦争と平和」—「ワルツ」(第2場) A. ルビンシテイン／歌劇「悪魔」のバレエ音楽—「少女たちの踊り」* グリシカ／歌劇「イワン・スサーニン」—「クラコヴィアク」 リムスキー・コルサコフ／歌劇「雪娘」組曲 チャイコフスキー(フェドセーエフ編)／バレエ組曲「眠りの森の美女」 指揮:ウラディミール・フェドセーエフ ★当初発表の曲目から変更となりました	一般 ユースチケット S ¥9,100 S ¥4,000 A ¥7,600 A ¥3,500 B ¥5,900 B ¥2,800 C ¥4,800 C ¥2,100 D ¥3,800 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
		11/25(土) 6:00pm 11/26(日) 2:00pm	NHKホール	
	B	第1996回	最高峰の解釈者が紡ぐシベリウス その幽玄な世界に浸る シベリウス／交響詩「タビオラ」作品112 ストラヴィンスキー／ヴァイオリン協奏曲 二調 シベリウス／交響曲 第1番 ホ短調 作品39 指揮:ユッカ・ベッカ・サラステ ヴァイオリン:ベッカ・クーシスト	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
		11/15(水) 7:00pm 11/16(木) 7:00pm	サントリーホール	
	C	第1995回	ハンガリー出身の新星が贈る母国の名作 バルトーク／ハンガリーの風景 リスト／ハンガリー幻想曲* コダーイ／組曲「ハリー・ヤーノシュ」 指揮:ゲルゲイ・マダラシュ ピアノ:阪田知樹*	一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800
		11/10(金) 7:30pm 11/11(土) 2:00pm	NHKホール	

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
	開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm
2023 12	A 第2000回	渋谷から鳴動する 大宇宙を震わす響き 第2000回定期公演 マーラー / 交響曲 第8番 変ホ長調「千人の交響曲」[ファン投票選出] 指揮:ファビオ・ルイージ ソプラノ:ジヤクリン・ワーグナー* ヴァレンティーナ・フルカシュ、三宅理恵 アルト:オレシア・ストロヴァ、カリオーナ・モリソ、テノール:ミハエル・シャーデ バリトン:ルーカ・ストロフ バス:デヴィッド・ステファニス 合唱:新国立劇場合唱団 児童合唱:NHK東京児童合唱団 ★当初発表の出演者から変更となりました。		一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,200 D ¥6,000 D ¥2,500 E ¥3,300 E ¥1,600	
	12/16(土) 6:00pm 12/17(日) 2:00pm	NHKホール		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800	
	B 第1999回	レーガールの気品あふれる名作をルイージの指揮で聴く レーガール生誕150年 ハイドン / 交響曲 第100番ト長調 Hob. I-100「軍隊」 リスト / ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 レーガール / モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132 指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:アリス・紗良・オット		一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
12/6(水) 7:00pm 12/7(木) 7:00pm	サントリーホール		一般 ユースチケット S ¥9,100 S ¥4,000 A ¥7,600 A ¥3,500 B ¥6,900 B ¥2,800 C ¥4,800 C ¥2,100 D ¥3,800 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000		
C 第1998回	目くるめく夢幻 荒れ狂う狂騒 ルイージの《幻想》 フンバーディンク / 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲 ベルリオーズ / 幻想交響曲 作品14 指揮:ファビオ・ルイージ		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800		
12/1(金) 7:30pm 12/2(土) 2:00pm	NHKホール		一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800		
2024 01	A 第2001回	舞台音楽に通暁するソビエフのフランス & ロシア バレエ音楽の精華 ビゼー(シュテッドリン編) / バレエ音楽「カルメン組曲」 ラヴェル / 組曲「マ・メール・ロウ」 ラヴェル / バレエ音楽「ラ・ヴァルス」 指揮:トゥガン・ソビエフ		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800	
	1/13(土) 6:00pm 1/14(日) 2:00pm	NHKホール		一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
	B 第2003回	N響が誇るトップ奏者たちがモーツァルトを腕を振るう モーツァルト / ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K.364 ベートーヴェン / 交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」 指揮:トゥガン・ソビエフ ヴァイオリン:郷古 廉(N響ゲスト・コンサートマスター)* ヴィオラ:村上淳一郎(N響首席ヴィオラ奏者) ★当初発表の出演者から変更となりました。		一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
1/24(水) 7:00pm 1/25(木) 7:00pm	サントリーホール		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800		
C 第2002回	ソビエフが切実に描く 恋人たちの悲劇 リヤードフ / 交響詩「キキモフ」作品63 プロコフィエフ(ソビエフ編) / バレエ組曲「ロメオとジュリエット」 指揮:トゥガン・ソビエフ		一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800		
1/19(金) 7:30pm 1/20(土) 2:00pm	NHKホール		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400		
2024 02	A 第2004回	井上道義 最後のN響定期でショスタコーヴィチの問題作を問う ヨハン・シュトラウスII世 / ボルカ「クラブファン」の森で」作品336 ショスタコーヴィチ / 舞台管弦楽のための組曲 第1番 —「行進曲」「リリック・ワルツ」「小さなボルカ」「ワルツ第2番」 ショスタコーヴィチ / 交響曲 第13番 変ロ短調 作品113「パピ・ヤール」* 指揮:井上道義 バス:エフゲーニ・スタヴィンスキー* 男声合唱:オルフェイ・ドレンガル男声合唱団*		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400	
	2/3(土) 6:00pm 2/4(日) 2:00pm	NHKホール		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800	
	B 第2006回	エラス・カサド 母国の名作を携え5年ぶりにN響定期登場 ラヴェル / スペイン狂詩曲 プロコフィエフ / ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63 ファリャ / バレエ音楽「三角帽子」(全曲)* 指揮:ハフロ・エラス・カサド ヴァイオリン:オーガスティン・ハーデリッヒ ソプラノ:吉田珠代*		一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800	
2/14(水) 7:00pm 2/15(木) 7:00pm	サントリーホール		一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800		
C 第2005回	情熱の人 大植英次 四半世紀を経て再びN響定期の舞台に ワーグナー / ジークフリートの牧歌 R. シュトラウス / 交響詩「英雄の生涯」作品40 指揮:大植英次		一般 ユースチケット S ¥7,600 S ¥3,500 A ¥6,700 A ¥3,000 B ¥5,300 B ¥2,400 C ¥4,300 C ¥1,900 D ¥3,300 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800		
2/9(金) 7:30pm 2/10(土) 2:00pm	NHKホール				

2024
04

A 第2007回
4/13(土) 6:00pm
4/14(日) 2:00pm
NHKホール

妥協なき巨匠 ヤノフスキと拓くブラームス(第1番)の新たな世界
シューベルト/交響曲 第4番 ハ短調 D. 417
ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68

指揮:マレク・ヤノフスキ

一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

B 第2009回
4/24(水) 7:00pm
4/25(木) 7:00pm
サントリーホール

巨匠が生涯をかけて探究する シューマンの奥深き世界
シューマン/歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲
シューマン/チェロ協奏曲 イ短調 作品129
シューマン/交響曲 第2番 ハ長調 作品61

指揮:クリストフ・エッセンバッハ
チェロ:キアン・ソルターニ

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

C 第2008回
4/19(金) 7:30pm
4/20(土) 2:00pm
NHKホール

巨匠エッセンバッハ 満を持してブルックナーをN響で初披露
ブルックナー/交響曲 第7番 ホ長調

指揮:クリストフ・エッセンバッハ

一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2024
05

A 第2010回
5/11(土) 6:00pm
5/12(日) 2:00pm
NHKホール

眼前に蘇る古今のローマの情景 そして人々の息遣い
バンフィリ/戦いを生きたる [日本初演]
レスピーギ/交響詩「ローマの噴水」
レスピーギ/交響詩「ローマの松」
レスピーギ/交響詩「ローマの祭り」

指揮:ファビオ・ルイーゼ

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

B 第2012回
5/22(水) 7:00pm
5/23(木) 7:00pm
サントリーホール

デンマーク国立響のシェフ ルイーゼがN響でニルセンを初披露
ブラームス/ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15
ニルセン/交響曲 第2番 口短調 作品16[4つの気質]

指揮:ファビオ・ルイーゼ
ピアノ:ノルドルフ・プフィンダー

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

C 第2011回
5/17(金) 7:30pm
5/18(土) 2:00pm
NHKホール

ルイーゼ&N響のメンデルスゾーン第2弾 《夏の夜の夢》&《宗教改革》
メンデルスゾーン/「夏の夜の夢」の音楽
—「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」
メンデルスゾーン/交響曲 第5番 二短調 作品107「宗教改革」

指揮:ファビオ・ルイーゼ

一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2024
06

A 第2013回
6/8(土) 6:00pm
6/9(日) 2:00pm
NHKホール

盟友 原田と反田が誘う魅力あふれるスクリャービンの世界
スクリャービン/ 夢想 作品24
スクリャービン/ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20
スクリャービン/交響曲 第2番 ハ短調 作品29

指揮:原田慶太楼
ピアノ:反田恭平

一般	ユースチケット
S ¥9,100	S ¥4,000
A ¥7,600	A ¥3,500
B ¥5,900	B ¥2,800
C ¥4,800	C ¥2,100
D ¥3,800	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

B 第2015回
6/19(水) 7:00pm
6/20(木) 7:00pm
サントリーホール

楽都ウィーンで生まれた古今の傑作を鈴木優人のタクトで聴く
ウェーベルン/バツサカリア 作品1
シェーンベルク/ヴァイオリン協奏曲 作品36
バッハ(ウェーベルン編)/リチエルカータ
シューベルト/交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485

指揮:鈴木優人 ヴァイオリン:イザベル・ファウスト

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

C 第2014回
6/14(金) 7:30pm
6/15(土) 2:00pm
NHKホール

定期初登場 沖澤のどかと臨む エスプリ溢れるフランス・プログラム
イベール/寄港地
ラヴェル/左手のためのピアノ協奏曲
ドビュッシー/夜想曲*

指揮:沖澤のどか
ピアノ:デニス・コジュビン 女声合唱:東京混声合唱団*

一般	ユースチケット
S ¥7,600	S ¥3,500
A ¥6,700	A ¥3,000
B ¥5,300	B ¥2,400
C ¥4,300	C ¥1,900
D ¥3,300	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

特別公演

9/28(木) 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート2023

サントリーホール

指揮:下野竜也 ピアノ:小林海都

ドヴォルザーク/序曲「謝肉祭」作品92

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K. 488

ドヴォルザーク/交響曲 第8番 ト長調 作品88

料金(税込):一般 | SS席8,500円 S席6,500円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円

ユースチケット(25歳以下) | SS席4,200円 S席3,200円 A席2,500円 B席1,700円 C席1,200円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット:発売中

主催:NHK交響楽団

特別協賛:株式会社 明電舎

12/22(金) 7:00pm

12/23(土) 2:00pm

12/24(日) 2:00pm

12/26(火) 7:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHK ホール

指揮:下野竜也 ソプラノ:中村恵理 メゾ・ソプラノ:脇園 彩 テノール:村上公太 バス:河野鉄平

合唱:新国立劇場合唱団

バーバー/弦楽のためのアダージョ

ベートーヴェン/交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,000円 C席6,500円 D席4,500円

ユースチケット(25歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,500円 C席3,250円 D席2,250円

チケット発売日:N響定期会員先行発売(26日公演をのぞく) | 10月3日(火)10:00am

一般 | 10月9日(月・祝)10:00am

※定期会員は一般料金の10%割引(26日公演をのぞく)

※12月26日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。定期会員の先行発売、割引はありません。

主催:NHK・NHK交響楽団/NHK・NHK厚生文化事業団(26日公演のみ)

協賛:みずほ証券株式会社/はごろもフーズ株式会社/株式会社明電舎

お問い合わせ:N響ガイド TEL (0570)02-9502 / NHK厚生文化事業団 TEL (03) 3476-5955 (26日公演のみ)

12/27(木) 7:00pm | かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮: 下野竜也 オルガン: 勝山雅世* ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ

バッハ／18のライブチヒ・コラール―「装いせよ、おお、愛する魂よ」BWV654*

バーバー／弦楽のためのアダージョ

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込): 一般 | S席17,500円 A席14,500円 B席11,500円 C席8,000円

ユースチケット(25歳以下) | S席8,750円 A席7,250円 B席5,750円 C席4,000円

チケット発売日: N響定期会員先行発売 10月3日(火) 10:00am

一般 | 10月9日(月・祝) 10:00am

※定期会員は一般料金の10%割引

主催: NHK交響楽団 特別協賛: 株式会社かんぼ生命保険

お問い合わせ: N響ガイド TEL (0570)02-9502

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>

お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am ~ 5:00pm

定休日: 土・日・祝日

●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am ~ 開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am ~ 3:00pm の営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

9/23[土]祝 3:00pm | NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)

愛知県芸術劇場 コンサートホール

指揮:トン・コープマン フルート:神田寛明(N響首席フルート奏者)

モーツァルト/交響曲 第29番 イ長調 K. 201

モーツァルト/フルート協奏曲 第2番 二長調 K. 314

モーツァルト/交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543

主催:愛知県芸術劇場、NHK名古屋放送局 お問い合わせ:愛知県芸術劇場 TEL(052)211-7552

9/24[日]5:00pm | 開館35周年記念 NHK交響楽団 伊那公演

長野県伊那文化会館 大ホール

出演者・曲目は9月23日と同じ

主催:長野県伊那文化会館(一財)長野県文化振興事業団 お問い合わせ:長野県伊那文化会館 TEL(0265)73-8822

10/1[日]3:00pm | 鎌倉芸術館開館30周年記念 NHK交響楽団演奏会

鎌倉芸術館 大ホール

指揮:下野竜也 ピアノ:小林海都

ドヴォルザーク/序曲「謝肉祭」作品92

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調 K. 271「ジュノム」

ドヴォルザーク/交響曲 第8番ト長調 作品88

主催:鎌倉市芸術館指定管理者 鎌倉市芸術文化振興財団・国際ビルサービス共同事業体 お問い合わせ:鎌倉芸術館チケットセンター TEL(0120)1192-40

10/2[月]7:00pm | オーケストラ・キャラバン NHK交響楽団 山形特別公演

やまぎん県民ホール

出演者・曲目は10月1日と同じ

主催:公益社団法人日本オーケストラ連盟/NHK交響楽団 お問い合わせ:やまぎん県民ホールチケットデスク TEL(023)664-2204

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金

(統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2))

独立行政法人日本芸術文化振興会

10/7**国** 6:00pm | **第11回 NHK交響楽団いわき定期演奏会**

いわき芸術文化交流館アリオス アルパイン大ホール

指揮:鈴木雅明 ヴァイオリン:成田達輝
シューベルト/交響曲 第7番 口短調 D. 759 「未完成」
モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲 第4番 二長調 K. 218
メンデルスゾーン/交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

主催:いわき芸術文化交流館アリオス お問合せ:アリオスチケットセンター TEL (0246) 22-5800

10/29**日** 2:00pm | **NHK交響楽団**
ヘルベルト・ブロムシュテット[指揮] **レイフ・オヴェ・アンズネス**[ピアノ]

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ピアノ:レイフ・オヴェ・アンズネス
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」
ブラームス/交響曲 第3番 へ長調 作品90

主催:(公財)所沢市民文化振興事業団 お問合せ:ミュージックチケットカウンター TEL (04) 2998-7777

11/2**日** 7:00pm | **第180回 NTT東日本 N響コンサート**

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:園田隆一郎 ピアノ:萩原麻未
シベリウス/交響詩「フィンランディア」作品26
グリーグ/ピアノ協奏曲 イ短調 作品16
グリーグ/「ペール・ギュント」組曲 第1番、第2番

主催:NTT東日本 お問合せ:NHKプロモーション TEL (03) 5790-6423

11/5**日** 4:00pm | **NHK交響楽団 梅田俊明(指揮) 戸澤采紀(ヴァイオリン)**

埼玉会館 大ホール

指揮:梅田俊明 ヴァイオリン:戸澤采紀
シベリウス/ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47
チャイコフスキー/交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催:公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 お問合せ:SAFチケットセンター TEL (0570) 064-939

11/20**日** 7:00pm | **NHK音楽祭2023**

NHKホール

指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ 児童合唱:東京少年少女合唱隊
チャイコフスキー/バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71(全曲)

主催:NHK、NHKプロモーション 共催:NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

12/9(土) 3:00pm

松戸市制施行80周年・森のホール21開館30周年記念事業

森のホール21クラシックス Vol. 4 NHK交響楽団

森のホール21 大ホール

指揮:ファビオ・ルイーヂ ピアノ:アリス・紗良・オット
ハイドン／交響曲 第100番ト長調 Hob. I-100 「軍隊」
リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調
レーガー／モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132

主催:公益財団法人 松戸市文化振興財団 お問い合わせ:森のホール21チケットセンター TEL (047)384-3331

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

10/28(土) 3:30pm

出演者・曲目は10月29日と同じ

Bunkamura オーチャードホール

1/8(月祝) 3:30pm

指揮:準・メルクル ソプラノ:森野美咲*
デュカス／交響詩「魔法使いの弟子」
トマ／歌劇「ミニョン」よりポロネーズ「私はティタニア」*
J.シュトラウスII／常動曲 作品257
J.シュトラウスII／ワルツ「春の声」作品410*
ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68

主催・お問い合わせ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ オーソリューションズ(株) 代表取締役 佐々木経世	・ CSMK(株) 代表取締役 執行役員 社長 當麻隆昭
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 平田恭佐
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 長村 中
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHK エデュケーションル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 伊東国際特許事務所 所長 伊東忠重	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ AXLBIT(株) 代表取締役社長 長谷川章博	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO) 中島伸子	・ (学)NHK 学園 理事長 等々力 健
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ (株)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役 傍田賢治
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK 出版 代表取締役社長 松本浩司
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (株)ウイングツアー 代表取締役 福田健二	・ (株)NHK テクノロジーズ 代表取締役社長 野口周一
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 森 俊哉	・ 内 聖美	

- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK文化センター
代表取締役社長 | 浦林竜太
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 星野晃司
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長CEO兼CHRO
増田裕一
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコマン(株)
代表取締役社長COO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(仮)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 石井光太郎
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマックス・ホールディングス
取締役会長兼取締役会議長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック青山
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則

- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田中進
- ・田原昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役会長兼社長 | 古谷太郎
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル 東日本(株)
代表取締役社長 | 石川 達
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹波俊介
- ・東急(株)
取締役社長 | 堀江正博
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役社長 | 西川八重子
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺藏人
- ・日興アセットマネジメント(株)
会長 | 西田 豊
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役員社長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野業穂子
- ・日本ガイシ(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役員社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
代表取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役員社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 社長執行役員
澁谷直樹
- ・(株)日立製作所
執行役員社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 渡部広史
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)
代表取締役社長CEO | リード・バトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公財)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役社長 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也

- 三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- (株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 永田周太郎
- 三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- 三原穂積
- (株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- (学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直敬
- (株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- (株)明電舎
執行役員社長 | 井上晃夫
- メットライフ生命保険(株)
取締役 代表執行役 副社長 | 伊地知 剛
- (株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
- (株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- 森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- 森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- 矢下茂雄
- 山下産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- (株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- (株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 西村 淳
- ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- 米澤文彦
- (株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- (株)読売旅行
代表取締役社長 | 真広貴志
- リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
木村和宏
- 料亭 三長
代表 | 高橋千善
- (株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- (有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ルーム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田淵浩記
- YCC(株)
社長 | 中山武之
- 渡辺敦郎・優子

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしく願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーゼ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者：尾高忠明

特別コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：郷古 廉

第1ヴァイオリン

- 青木 調
宇根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

- 大宮臨太郎
○森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也

山田慶一
横山俊朗
米田有花

東條太河

ヴィオラ

- 佐々木 亮
○村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

- 辻本 玲
○藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拡志
村井 将

○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

- 吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

- 甲斐雅之
○神田寛明
梶川真歩
中村淳二

オーボエ

- 吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

- 伊藤 圭
○松本健司
山根孝司

ファゴット

- 宇賀神広宣
○水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

- 今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

- 菊本和昭
○長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

- 古賀 光
○新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

- 植松 透
○久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、○首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

Information

退団

オーボエ 青山聖樹(あおやま さとぎ) 2023年7月31日付で退団。
コントラバス 佐川裕昭(さがわ ひろあき) 2023年7月31日付で退団。

訃報

当団元理事長で団友の青木賢児(あおき けんじ)氏が8月1日に逝去されました。享年90。謹んで哀悼の意を表します。青木賢児氏は1991年12月3日から1996年1月4日まで理事長を務められました。

曲目解説執筆者

岡田暁生(おかだ あけお)

京都大学人文科学研究所教授。専門は19世紀から20世紀初頭の西洋音楽。著書に『モーツァルトのオペラ——「愛」の発見』『音楽の危機——《第九》が歌えなくなった日』『西洋音楽史——「クラシック」の黄昏』『リヒャルト・シュトラウス』(作曲家・人と作品シリーズ)など、共著書に『すごいジャズには理由がある』『ごまかさなクラシック音楽』など。

小宮正安(こみや まさやす)

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院・都市科学部教授。専門はヨーロッパ文化史、ドイツ文学。著書に『エリザベートと黄昏のハプスブルク帝国』『コンスタンツェ・モーツァルト——「悪妻」伝説の虚実』『ヨハン・シュトラウス——ワルツ王と落日のウィーン』、訳書に『ウィーン・フィル コンサートマスターの楽屋から』『チャールズ・バーニー音楽見聞録(ドイツ篇)』など。

広瀬大介(ひろせ だいすけ)

音楽学者、音楽評論家。青山学院大学教授。日本リヒャルト・シュトラウス協会常務理事・事務局長。著書に『オペラ対訳×分析ハンドブック リヒャルト・シュトラウス／楽劇 サロメ』『楽劇 エレクトラ』『リヒャルト・シュトラウス「自画像」としてのオペラ』など。各種音楽媒体での評論活動のほか、NHKラジオへの出演、演奏会曲目解説・CDライナーノーツ、オペラ公演・映像の字幕・対訳等への寄稿多数。

(五十音順、敬称略)

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Sunao Goko

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Ryuto Muraō
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

Taiga Tojo

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A

Concert No.1989

NHK Hall

September

9 (Sat) 6:00pm

10 (Sun) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi

piano

Martin Helmchen*

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki

Richard Strauss (1864–1949)
Till Eulenspiegels lustige
Streiche, symphonic poem Op. 28
(Till Eulenspiegel's Merry Pranks) [15']

Richard Strauss
*Burleske, D Minor** [19']

— intermission (20 minutes) —

Richard Strauss
Aus Italien, symphonic fantasy
Op. 16 (From Italy) [45']

- I Auf der Campagna
- II In Roms Ruinen
- III Am strande von Sorrent
- IV Neapolitanisches Volksleben

- All performance durations are approximate.

9 & 10, SEPT. 2023

A

Artist Profiles

Fabio Luisi, conductor



Fabio Luisi hails from Genoa. He is the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra. In September 2022, he assumed the position of Chief Conductor of the NHK Symphony Orchestra, Tokyo.

Fabio Luisi was Principal Conductor of the Metropolitan Opera in New York, General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of the Wiener Symphoniker, as well as General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Artistic Director and Principal Conductor of the MDR Sinfonieorchester Leipzig, and Music Director of the Orchestre de la Suisse Romande. He is Music Director of the Festival della Valle d'Itria in Martina Franca (Apulia) and has appeared as guest conductor with numerous renowned ensembles, including the Philadelphia Orchestra, the Cleveland Orchestra, the Münchener Philharmoniker, the Filarmonica della Scala, the

London Symphony Orchestra, the Concertgebouworkest, and the Saito Kinen Orchestra, while also conducting operas at world's major opera houses.

Important recordings include Verdi, Bellini, Schumann, Berlioz, Rachmaninov, Rimsky-Korsakov, Frank Martin, and Franz Schmidt, the largely forgotten Austrian composer. In addition, he has recorded various symphonic poems by Richard Strauss, and a lauded reading of Bruckner's Symphony No. 9 with the Staatskapelle Dresden. His recordings of Wagner's Siegfried and Götterdämmerung with the Metropolitan Opera won Grammy awards.

Martin Helmchen, piano



German pianist Martin Helmchen was born in Berlin on June 21st, 1982. He studied with Galina Iwanzowa at Hans Eisler School of Music Berlin, then with Arie Vardi at Hanover University of Music, Drama and Media. After winning the Clara Haskil International Piano Competition in 2001, he has developed his career internationally as a leading German soloist, while also ardently working on chamber music influenced by cellist Boris

Pergamenščikov. He has made many recordings including those of Beethoven's complete piano concertos with the Deutsches Symphonie-Orchester Berlin which won the Gramophone Music Award.

His first collaboration with the NHK Symphony Orchestra was in 2005 playing Brahms Piano Concerto No. 2. Since then, he has played Beethoven Piano Concertos No. 4, No. 5 and Triple Concerto, weaving grandeur music with a soft and round touch. He returns this year after an absence of 11 years to perform R. Strauss's *Burleske*, a work which requires a much tighter ensemble of solo and the orchestra than a concerto does. He will surely delight us with his performance by fully displaying his own technique combined with his experience in chamber music.

[Martin Helmchen by Atsufumi Suzuki, music critic]

Richard Strauss (1864–1949)

***Till Eulenspiegels lustige Streiche,* symphonic poem Op. 28 (*Till Eulenspiegel's Merry Pranks*)**

Considered an invention by Franz Liszt, the tone (symphonic) poem is the genre that the Munich-born composer Strauss explored during the early stage of his long creative life. For this preeminent musical artisan who was all imagination, nothing was beyond his capacity to give a vivid musical description solely utilizing the orchestra.

His tone poem *Till Eulenspiegels lustige Streiche* (*Till Eulenspiegel's Merry Pranks*) (1895) is the exact opposite in character of its predecessor *Tod und Verklärung* (*Death and Transfiguration*) (1889). One of the best-known European tricksters, Till is a German folk hero who teases people of every grade of society with his witty mischiefs. Upon creating a musical version of this old tale consisting of different happenings, Strauss had a stroke of genius choosing the rondo form where the recurrent principal theme (or the refrain) alternates with other motifs.

According to the verbal descriptions the composer left us, though unofficially, the work begins with the “Once upon a time, there lived a rogue” melody on violins. Then the horn solo introduces the principal theme stating “His name was Till Eulenspiegel” whose unusualness is reflected in the septuple time. The brief, laughter-like waggish secondary theme given by clarinet solo represents “who was an unruly imp!” After four mischievous adventures, Till gets the gallows for blasphemy before the silence suggests his end. The “Once upon a time” melody returns to open the epilogue which is concluded merrily by the laughter-like theme.

Richard Strauss

Burleske, D Minor

Strauss was a musical prodigy from a prosperous family and became a cultured man of versatile musical gifts, just like Mendelssohn. Son of a horn virtuoso father, Strauss began to take piano lessons at age 4, to compose at 6 and to play violin at 8. In 1885, the artist in his early twenties took up his first professional position as the assistant to Hans von Bülow at the Meiningen Court Orchestra. Under this top-ranked conductor-pianist-composer, Strauss devoted himself to conducting studies and he, after taking over the orchestra in December 1885, made even a pianist debut with his ensemble performing Mozart's 24th Piano Concerto in C minor.

It was during this period, from 1885 to 1886, that Strauss wrote the single-movement concerto named *Scherzo*, hoping von Bülow as pianist would premiere it. He turned it down on the grounds that it was unplayable (presumably because of his small hands). It was also beyond Strauss' ability so it had to wait until 1890 for the first performance by the pianist Eugen d'Albert, a high-caliber disciple of Liszt, under the new title *Burleske* (*burlesque, farce*). The instrument taking a vital role in it – besides piano – is timpani which state the first theme alone at the beginning. After a while, the romantic second theme is given by pianist. Its warmth and lyricism are often associated with the writing of Brahms who greatly influenced the young Strauss. The piece is ended calmly by piano and timpani in dialogue.

A

9 & 10 SEPT. 2023

Aus Italien, symphonic fantasy Op. 16 (From Italy)

Italia has always fascinated composers traveling from northern countries to stir their creativity. Even within the orchestral field, the examples are too numerous to mention, with Mendelssohn (Symphony *Italian*, 1833), Tchaikovsky (*Capriccio Italien*, 1880), Brahms (Piano Concerto No. 2, 1881) and Sibelius (Symphony No. 2, 1901) to name a few. Interestingly, many of those pieces seem to be inspired less by Italian opera than by the country's climate, nature, folklore and history.

Aus Italien (From Italy) has a rightful place in the group. It is a “souvenir” from Strauss' first trip to Italy in the spring of 1886: he visited Bologna, Florence, Rome, Naples (including the Mount Vesuvius), Capri, Amalfi and Sorrento but gave up stopping by Venice because of a cholera outbreak there. He started to sketch the work while still travelling, before completing it in Munich in September 1886.

Aus Italien, although named “symphonic fantasy” by Strauss and cast in four movements (on top of that, the last three ones are in sonata form), is regarded by experts as the young composer's consequential first step into the genre of tone poem. In fact, this was his first programmatic music: each movement has the concrete, evocative title and thus can be heard as a tone poem. Written in the freest form of the whole work, the slow opening movement evokes some impressions Strauss had while viewing, from the Villa d'Este in Tivoli, the vast Roman Campagna bathed in sunlight. The next, *In Romas Ruinen (In the Ruins of Rome)*, is subtitled “Fantastic images of vanished glory, feelings of melancholy and sorrow amid the brilliant sunshine of the present”. Following the third movement *Am Strande von Sorrent (On the Beach at Sorrento)* not far from Impressionist scorings, the final *Neapolitanisches Volksleben (Neapolitan Folk Life)* lets violas and cellos introduce the dotted, lively main theme. Strauss quoted this tune mistaking it for a Neapolitan traditional song. As it was actually from the song *Funiculi, Funiculà* recently written to promote the funicular railway on Mount Vesuvius, Strauss, sued by the author, had to pay him royalties.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.1991

Suntory Hall

September

20 (Wed) 7:00pm

21 (Thu) 7:00pm

conductor Ton Koopman

flute Hiroaki Kanda

concertmaster Kota Nagahara♦

◆ **Kota Nagahara:** Born in Hiroshima, Kota Nagahara started learning the violin at the age of five, and worked with the Tokyo Symphony Orchestra at the age of twelve. He studied at Tokyo University of the Arts, and at the Juilliard School in New York. He has worked with many of the world's renowned conductors such as Seiji Ozawa, and has won the trust of Riccardo Muti, with whom he works every year at the Spring Festival in Tokyo. He performs as concert soloist as well as in chamber music while serving as the concertmaster of the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra.

Wolfgang Amadeus Mozart Symphony No. 29 A Major K. 201

[27']

- I Allegro moderato
- II Andante
- III Menuetto – Trio
- IV Allegro con spirito

Wolfgang Amadeus Mozart Flute Concerto No. 2 D Major K. 314 [21']

- I Allegro aperto
- II Andante ma non troppo
- III Allegro

— intermission (20 minutes) —

Wolfgang Amadeus Mozart Symphony No. 39 E-flat Major K. 543 [28']

- I Adagio – Allegro
- II Andante con moto
- III Menuetto: Allegretto – Trio
- IV Finale: Allegro

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Ton Koopman, conductor



Ton Koopman was born in 1944 in Zwolle, the Netherlands. He studied organ, harpsichord and musicology at the Amsterdam Conservatory, and as an organist and harpsichordist, rose to prominence as an outstanding interpreter of Baroque music, including works of J. S. Bach and Buxtehude. As a conductor, together with the Amsterdam Baroque Orchestra which he established in 1979 (a choir was added in 1992) to perform with period

instruments, he has taken up a repertoire ranging from baroque to classical periods to perform works based on the style and playing technique of the time these works were composed, for which he has won high acclaim. He is also known for his extensive discography including Bach's complete cantatas and organ works. On the other hand, in recent years, he has also been garnering attention for his approach exploiting the idea unique to an early music performer when actively conducting the leading modern orchestras of Europe and the U. S. such as the Berliner Philharmoniker.

He made guest appearances with the NHK Symphony Orchestra in 2017 and 2019, conducting all Mozart programs including Symphonies No. 40, No. 41 *Jupiter*, and *Requiem*. In the coming first appearance to conduct the orchestra's subscription concert (he was scheduled to appear for the orchestra's subscription concert for the first time in 2021, only to be cancelled due to COVID-19 pandemic), he has chosen an all Mozart program, and we expect to hear a delightful and lively performance typical of him. Collaboration with Hiroaki Kanda, the NHK Symphony Orchestra's principal flutist, is also what we look forward to.

[Motoyuki Teranishi, music critic]

Hiroaki Kanda, flute



Hiroaki Kanda, principal flutist of the NHK Symphony Orchestra, has won 1st prize at the 5th Japan Flute Convention Competition and at the 8th Japan Wind and Percussion Competition in 1991. He graduated from Tokyo University of the Arts in 1993, studied further at the University of Music and Performing Arts Vienna for one year from 1995, and finished Tokyo University of the Arts Graduate School in 2007. Tutors he has studied with to date include Keiichi Akahoshi, Chang-Kook Kim, Junzo Hosokawa, Wolfgang Schultz, and Hans-Georg Schmeiser.

He joined the NHK Symphony Orchestra in 1994, and became its principal flutist in 1999. As a soloist he has made guest appearances with orchestras including the Kyushu Symphony Orchestra and the Sendai Philharmonic Orchestra. He has released a large number of CDs, at the same time, he has also been active in a wide range of fields such as writing music practice books, supervising the revision of scores, and arranging more than 60 titles of flute ensemble.

While serving as a specially appointed director of the Japan Flutists Association and permanent director of the Asia Flutists Federation Japan, he has also been ardently teaching young artists as professor of Toho Gakuen University, a visiting professor at Osaka University of Arts and a lecturer at Tokyo University of the Arts.

Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791)**Symphony No. 29 A Major K. 201**

Mozart led a short but dense artistic life. He left us around fifty symphonies (including unnumbered ones) written over a quarter century, from No. 1 K. 16 penned in his childhood to No. 41 K. 551 *Jupiter*. They show us the evolution of his style from its starting point around the influence of Italian *sinfonia* (predecessor of the Classical symphony) with three fast-slow-fast movements. Of the middle period, No. 29 confirms a marked shift away to Viennese four-movement structure with a minuet movement, along with some contemporaries including No. 25 K. 183 “Little G minor.” The two masterpieces are often thought to anticipate Mozart’s supreme matureness in his last three symphonies (described below).

No. 29 was written by the eighteen-year-old composer in April 1774 in Salzburg, then his home, after his third five-month Italian tour and two-month stay in Vienna. Though the trips’ aim of obtaining a new job was not achieved, it is easy to imagine that the young Mozart absorbed a good deal at the leading centers of music. The distinctive features of No. 29 are the chamber-oriented transparent instrumentation (strings with only pairs of oboes and horns), the more-than-usual number of melodic elements which are sometimes treated in a polyphonic manner, as well as the thematic unification found between the outer movements in sonata form. To be more specific, the octave-dropping motif heads the first themes given at the outset of the opening and closing movements.

Wolfgang Amadeus Mozart**Flute Concerto No. 2 D Major K. 314**

A magnum opus, Mozart’s Flute Concerto No. 2 remains uncertain when and how it was penned. Based on the most common view, it was born during his stay (October 1777 to March 1778) in Mannheim which was then celebrated for its outstanding, cutting-edge court orchestra. Through his friend Johann Baptist Wendling who was a flute player of the orchestra, Mozart received a set of commissions including three flute concertos from a wealthy Dutch amateur flutist. However, the number of concertos the composer rendered to his client was only two. Worse, one of the two – known today as Flute Concerto No. 2 – was a rework of his C-major Oboe Concerto (presumably written in April 1777). According to another view, this Flute Concerto was premiered prior to Mozart’s departure for Mannheim. At any rate, the work sounds as if it was originally written for flute, maximizing the potential and charm of the instrument which was still developing at the time.

Mozart heads the opening movement Allegro “aperto” (literally meaning “open”, “clear”, “frank”): this designation is rare but also found in some of Mozart’s early concertos. After violins introduce the two sonata themes, the flute solo enters in a bright and open manner to keep singing flowingly. The next slow movement fully exhibits the lyrical and melancholic nature of the flute, then the finale unfolds a high-spirited rondo with the recurrent perky theme given by the soloist at the beginning.

Symphony No. 39 E-flat Major K. 543

For Mozart, the year 1788 – three years before his death – was a hard one. Following his father’s passing in 1787, his daughter Theresia died prematurely in late-June 1788. It was also from this year that his financial situation in Vienna took a turn for the worse. He since asked his freemason fellow Michael Puchberg for loans repeatedly. Unable to pay rent, Mozart’s family ended up moving to a distant suburb in mid-June. Caught in this predicament, however, Mozart was incredibly prolific. In addition to many other pieces, he completed his last three symphonies in a phenomenally quick succession: No. 39 on June 26, No. 40 “Great G minor” K. 550 on July 25 and No. 41 *Jupiter* K. 551 on August 10, 1788.

One of the rarities of No. 39 is the presence of clarinets instead of oboes. Among his symphonic output besides No. 39, oboe is absent only in a few symphonies from the early 1770’s. As clarinet was a new instrument, he scored for it (as a pair) solely in late symphonies, namely in No. 31 *Paris* K. 297, No. 35 *Haffner* K. 385 and the revised version of No. 40 K. 550, always “with” oboes. His choice (and nonuse) of instruments thus makes the sound of No. 39 uniquely round.

No. 39 is also unique in that the first movement has an introduction and, moreover, it was an exceptionally-long, fairly-dissonant introduction for those days: this magnificent dupe-time opening leads seamlessly to the cheerful main Allegro section in triple time. The minuet movement in A–B–A form is particularly known for its central section where two clarinets give a superb duet interjected by a flute. The lively finale in sonata form points toward both Mozart’s senior Haydn and his junior Beethoven with its monothematic approach: as the first theme presented by violins at the beginning is rephrased to be the second theme, this movement seems to seek an elaborate motivic development more than a thematic contrast.

Incidentally, Mozart often chose E-flat major for his freemasonic pieces, the best example of which is his last opera *Die Zauberflöte* (*Magic Flute*) (1791).

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

PROGRAM

C

Concert No.1990

NHK Hall

September

15 (Fri) 6:00pm

16 (Sat) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 55

concertmaster

Naoya Nishimura ♦

♦ **Naoya Nishimura:** Naoya Nishimura was born in Nagoya. He started learning the violin at the age of four and graduated with honors from the Mannheim University of Music and Performing Arts. He has been invited to serve as a guest concertmaster by such orchestras as the Orchester de Paris and the Rotterdam Philharmonic Orchestra. After serving as 1st concertmaster of the Hamburger Symphoniker, he is presently the 1st concertmaster of the Philharmonische Staatsorchester Mainz.

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 15th from 6:45pm / Saturday 16th from 1:15pm

Kenji Matsumoto(cl.), Toshihiro Takai(vn.), Akiko Tanaka(vn.), Hiroto Tobisawa(vla.), Rei Tsujimoto(vc.), Shinji Nishiyama(cb.)*

Baermann / Clarinet Quintet No. 3 E-flat Major Op. 23—2nd Mov.

(Formerly Attributed to Wagner / Adagio for Clarinet and Strings in D-flat Major)*

Brahms / Clarinet Quintet B-Minor Op. 115—3rd Mov.

* You may enter and leave as you please during the performance.

* Enjoy chamber music from your own seat.

Richard Wagner / Henk de Vlieger
The Ring, An Orchestral
***Adventure* [64']**

- I Vorspiel
- II Das Rheingold
- III Nebelheim
- IV Walhall
- V Die Walküren
- VI Feuerzauber
- VII Waldweben
- VIII Siegfrieds Heldenat

- IX Brünnhildes Erwachen
- X Siegfried und Brünnhilde
- XI Siegfrieds Rheinfahrt
- XII Siegfrieds Tod
- XIII Trauermusik
- XIV Brünnhildes Opfertat

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

15 & 16, SEPT., 2023

C

Richard Wagner (1813–1883) / Henk de Vlieger (1953–)

The Ring, An Orchestral Adventure

Based on German and Scandinavian legends, *Der Ring des Nibelungen* (*The Ring of the Nibelung*) is a music drama for singers and a large orchestra. Consisting of four parts (*Das Rheingold* [*The Rhinegold*], *Die Walküre* [*The Valkyrie*], *Siegfried and Götterdämmerung* [*Twilight of the Gods*]), it takes approximately fifteen hours to perform. Wagner wrote both the libretto and music of this cycle where the drama and the music are indissolubly united on an unprecedented level, especially by the scrupulous use of the numerous leitmotifs (recurrent melodic or/and harmonic elements representing certain characters, feelings, things or so).

Among highly-praised arrangements of this musical epic is *The Ring, An Orchestral Adventure* (1991). It was prepared for the Netherlands Radio Philharmonic Orchestra by Henk de Vlieger, then its principal percussionist. Performed seamlessly, this purely-orchestral digest follows the flow of the plot where gods and mortals battle for the magic ring in order to have the power to rule the world.

An Orchestral Adventure starts with I *Vorspiel* (*Prelude*) and II *Das Rheingold* (*The Rhinegold*) both set in the Rhine River of which Alberich (Nibelung dwarf) steals the gold from the bottom. He then forges it into a ring in III *Nibelheim*, his kingdom, which resounds with the pounding of anvils. Wotan (ruler of the gods) takes the ring, but parts with it to stay away from the curse put on it by Alberich. The famous music of V *Die Walküren* (*The Valkyries*) portrays the warrior maidens on flying horses. These Valkyries are daughters of Wotan and sisters of Brünnhilde who is deprived of immortality for disobeying her father. She is put to sleep fenced around with VI *Feuerzauber* (*The Magic Fire*) that only a true hero would not fear. The horn solo opening VIII *Siegfrieds Heldentat* (*Siegfried's Heroic Deed*) represents the bravery of Siegfried (Wotan's mortal grandson) who becomes the owner of the ring. The young hero goes to wake his future wife up (IX *Brünnhildes Erwachen* [*Brünnhilde's Awakening*]). He gives her the ring as a pledge of fidelity (X *Siegfried und Brünnhilde* [*Siegfried and Brünnhilde*]) before Hagen (Alberich's son) assassinates him (XII *Siegfrieds Tod* [*Siegfried's Death*], XIII *Trauermusik* [*Funeral March*]). Brünnhilde burns herself on her husband's funeral pyre returning the cursed ring to the Rhine at XIV *Brünnhildes Opfertat* (*Brünnhilde's Immolation*) which is ended peacefully by the "redemption-through-love" leitmotif on strings.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 58

The Subscription Concerts Program 2023–24

2023
09

A	Concert No. 1989	R. Strauss <i>Till Eulenspiegels lustige Streiche</i> , symphonic poem Op. 28 (<i>Till Eulenspiegel's Merry Pranks</i>)	Ordinary	Youth
	September 9 (Sat) 6:00pm 10 (Sun) 2:00pm	R. Strauss <i>Burleske</i> , D Minor* R. Strauss <i>Aus Italien</i> , symphonic fantasy Op. 16 (<i>From Italy</i>)	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400

NHK Hall

Fabio Luisi, conductor
Martin Helmchen, piano*

B	Concert No. 1991	Mozart Symphony No. 29 A Major K. 201 Mozart Flute Concerto No. 2 D Major K. 314 Mozart Symphony No. 39 E-flat Major K. 543	Ordinary	Youth
	September 20 (Wed) 7:00pm 21 (Thu) 7:00pm	Ton Koopman, conductor Hiroaki Kanda (Principal Flute, NHKSO), flute	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800

Suntory Hall

C	Concert No. 1990	Wagner / Vlieger <i>The Ring, An Orchestral Adventure</i>	Ordinary	Youth
	September 15 (Fri) 7:30pm 16 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor	S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800

NHK Hall

2023
10

A	Concert No. 1992	Bruckner Symphony No. 5 B-flat Major	Ordinary	Youth
	October 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400

NHK Hall

B	Concert No. 1994	Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, <i>Emperor</i> Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90	Ordinary	Youth
	October 25 (Wed) 7:00pm 26 (Thu) 7:00pm	Herbert Blomstedt, conductor Leif Ove Andsnes, piano	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800

Suntory Hall

C	Concert No. 1993	Nielsen <i>Aladdin</i> , suite Op. 34— <i>Oriental Festive March, Hindu Dance</i> , <i>The Market Place in Ispahan, Negro Dance</i> Sibelius Symphony No. 2 D Major Op. 43	Ordinary	Youth
	October 20 (Fri) 7:30pm 21 (Sat) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor	S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800

NHK Hall

2023
11

A	Concert No. 1997	Sviridov <i>Small Triptych</i> Prokofiev <i>War and Peace</i> , opera Op. 91— <i>Waltz in scene 2</i> Anton Rubinstein Ballet Music from <i>The Demon</i> , opera — <i>Dance of Girls</i> *	Ordinary	Youth
	November 25 (Sat) 6:00pm 26 (Sun) 2:00pm	Glinka <i>Ivan Sussanin</i> , opera— <i>Krakowiak</i> Rimsky-Korsakov <i>Snow Maiden</i> , suite Tchaikovsky / Fedoseyev <i>The Sleeping Beauty</i> , ballet suite	S 9,100 A 7,600 B 5,900 C 4,800 D 3,800 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000

NHK Hall

Vladimir Fedoseyev, conductor
*Changed from original program.

B	Concert No. 1996	Sibelius <i>Tapiola</i> , symphonic poem Op. 112 Stravinsky Violin Concerto in D Sibelius Symphony No. 1 E Minor Op. 39	Ordinary	Youth
	November 15 (Wed) 7:00pm 16 (Thu) 7:00pm	Jukka-Pekka Saraste, conductor Pekka Kuusisto, violin	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800

Suntory Hall

C	Concert No. 1995	Bartók <i>Hungarian Pictures</i> Liszt <i>Hungarian Fantasy</i> * Kodály <i>Háry János</i> , suite	Ordinary	Youth
	November 10 (Fri) 7:30pm 11 (Sat) 2:00pm	Gergely Madaras, conductor Tomoki Sakata, piano*	S 7,600 A 6,700 B 5,300 C 4,300 D 3,300 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800

NHK Hall

(consumption tax included)

A NHK Hall		B Suntory Hall		C NHK Hall	
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm) Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)		Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm) Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)		Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm) Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)	
2023 12	A	Concert No. 2000 December 16 (Sat) 6:00pm 17 (Sun) 2:00pm NHK Hall	The 2000th Subscription Concerts Mahler Symphony No. 8 E-flat Major, <i>Symphonie der Tausend</i> (<i>Symphony of Thousand</i>) Fabio Luisi, conductor Jacquelyn Wagner*, Valentina Farcas, Rie Miyake, sopranos Olesya Petrova, Catriona Morison, altos Michael Schade, tenor Luke Suttiff, baritone David Steffens, bass New National Theatre Chorus, chorus NHK Tokyo Children Chorus, children chorus *Changed from initially scheduled.		Ordinary Youth S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 6,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,200 D 5,000 D 2,500 E 3,300 E 1,600
	B	Concert No. 1999 December 6 (Wed) 7:00pm 7 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Haydn Symphony No. 100 G Major Hob. I-100, <i>Military</i> Liszt Piano Concerto No. 1 E-flat Major Reger Variations and Fugue on a Theme by Mozart Op. 132 Fabio Luisi, conductor Alice-Sara Ott, piano		Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	C	Concert No. 1998 December 1 (Fri) 7:30pm 2 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Humperdinck <i>Hänsel und Gretel</i> , opera— <i>Prelude</i> (<i>Hansel and Gretel</i>) Berlioz <i>Symphonie fantastique</i> , Op. 14 (<i>Fantastical Symphony</i>) Fabio Luisi, conductor		Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
2024 01	A	Concert No. 2001 January 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Bizet / Shchedrin <i>Carmen Suite</i> , ballet Ravel <i>Ma mère l'Oye</i> , suite (<i>Mother Goose</i>) Ravel <i>La valse</i> , ballet Tugan Sokhiev, conductor		Ordinary Youth S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	B	Concert No. 2003 January 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Mozart Sinfonia Concertante for Violin and Viola E-flat Major K. 364 Beethoven Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, <i>Eroica</i> (<i>Heroic Symphony</i>) Tugan Sokhiev, conductor Sunao Goko (Guest concertmaster, NHKSO), violin* Junichiro Murakami (Principal Viola, NHKSO), viola *Changed from initially scheduled.		Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	C	Concert No. 2002 January 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Liadov <i>Kikimora</i> , légende Op. 63 Prokofiev / Sokhiev <i>Romeo and Juliet</i> , ballet suite Tugan Sokhiev, conductor		Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
2024 02	A	Concert No. 2004 February 3 (Sat) 6:00pm 4 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Johann Strauss II <i>Im Krapfenwald'l</i> , polka française Op. 336 (<i>In Krapfen's Woods</i>) Shostakovich Suite for Variety Orchestra No. 1 — <i>March, Lyrical Waltz, Little Polka, Waltz II</i> Shostakovich Symphony No. 13 B-flat Minor Op. 113, <i>Babi Yar*</i> Michiyoshi Inoue, conductor Evgeny Stavinsky, bass* Orpei Drängar, male chorus*		Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
	B	Concert No. 2006 February 14 (Wed) 7:00pm 15 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Ravel <i>Rapsodie espagnole</i> (<i>Spanish Rhapsody</i>) Prokofiev Violin Concerto No. 2 G Minor Op. 63 Falla <i>El sombrero de tres picos</i> , ballet (complete) (<i>The Three-Cornered Hat</i>)* Pablo Heras-Casado, conductor Augustin Hadelich, violin Tamayo Yoshida, soprano*		Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	C	Concert No. 2005 February 9 (Fri) 7:30pm 10 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Wagner <i>Siegfried Idyll</i> R. Strauss <i>Ein Heldenleben</i> , symphonic poem Op. 40 (<i>A Hero's Life</i>) Eiji Oue, conductor		Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800

(consumption tax included)

Program C

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.
 - Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

2024
04

A	Concert No. 2007	Schubert Symphony No. 4 C Minor D. 417 Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68	Ordinary Youth S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	April 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm	Marek Janowski, conductor	
NHK Hall			

B	Concert No. 2009	Schumann <i>Genoveva</i> , opera Op. 81—Overture Schumann Cello Concerto A Minor Op. 129 Schumann Symphony No. 2 C Major Op. 61	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	April 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm	Christoph Eschenbach, conductor Kian Soltani, cello	
Suntory Hall			

C	Concert No. 2008	Bruckner Symphony No. 7 E Major	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
	April 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm	Christoph Eschenbach, conductor	
NHK Hall			

2024
05

A	Concert No. 2010	Panfilii <i>Abitare la battaglia</i> [Japan Premiere] Respighi <i>Fontane di Roma</i> , symphonic poem (<i>Fountains of Rome</i>) Respighi <i>Pini di Roma</i> , symphonic poem (<i>Pines of Rome</i>) Respighi <i>Feste Romane</i> , symphonic poem (<i>Roman Festivals</i>)	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
	May 11 (Sat) 6:00pm 12 (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor	
NHK Hall			

B	Concert No. 2012	Brahms Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15 Nielsen Symphony No. 2 B Minor Op. 16, <i>The 4 Temperaments</i>	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	May 22 (Wed) 7:00pm 23 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Rudolf Buchbinder, piano	
Suntory Hall			

C	Concert No. 2011	Mendelssohn <i>A Midsummer Night's Dream</i> —Overture, Nocturne, Scherzo, Wedding March Mendelssohn Symphony No. 5 D Minor Op. 107, <i>Reformation</i>	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
	May 17 (Fri) 7:30pm 18 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor	
NHK Hall			

2024
06

A	Concert No. 2013	Scriabin <i>Rêverie</i> , Op. 24 Scriabin Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20 Scriabin Symphony No. 2 C Minor Op. 29	Ordinary Youth S 9,100 S 4,000 A 7,600 A 3,500 B 5,900 B 2,800 C 4,800 C 2,100 D 3,800 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	June 8 (Sat) 6:00pm 9 (Sun) 2:00pm	Keitaro Harada, conductor Kyohei Sorita, piano	
NHK Hall			

B	Concert No. 2015	Webern Passacaglia Op. 1 Schönberg Violin Concerto Op. 36 J. S. Bach / Webern Ricercata Schubert Symphony No. 5 B-flat Major D. 485	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	June 19 (Wed) 7:00pm 20 (Thu) 7:00pm	Masato Suzuki, conductor Isabelle Faust, violin	
Suntory Hall			

C	Concert No. 2014	Ibert <i>Escales (Ports of Call)</i> Ravel Piano Concerto for the Left Hand Debussy <i>Nocturnes*</i>	Ordinary Youth S 7,600 S 3,500 A 6,700 A 3,000 B 5,300 B 2,400 C 4,300 C 1,900 D 3,300 D 1,400 E 1,600 E 800
	June 14 (Fri) 7:30pm 15 (Sat) 2:00pm	Nodoka Okisawa, conductor Denis Kozhukhin, piano The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus*	
NHK Hall			

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

(consumption tax included)

N響関連のお知らせ

いつでもどこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも

お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ

※2 地域によって一部は番組2週間配信

アプリで便利に！

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※ 放送受信規約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても
楽しめる！

聴き逃し

放送終了後1週間/
聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

伝えるチカラ

NHK財団

- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの一般財団法人が合併して、NHK財団が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進めていきます。

ステラ
net



NHK財団の最新情報ははこちらから

役員等・団友

役員等

理事長	今村啓一
常務理事	中野谷公一 三溝敬志
理事	相川直樹 内永ゆか子 岡田知之 笠原裕之 杉山博孝 錢谷真美 團宏明 毛利衛
監事	浜村和則 江口貴之
評議員	稲葉延雄 江頭敏明 樺山紘一 熊埜御堂 朋子 清野智 田中宏暁 檀ふみ 坪井節子 前田昭雄 松居 匡 三浦 惺 山名啓雄 渡辺 修

事務局

演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	技術主幹
岩渕一真 山田大祐 石井 康 北見佳織 利光敬司	高木かおり 沖 あかね 内山弥生 徳永匡哉 高橋 啓	宮崎則匡 黒川大亮 上原 静 木村英代	田内誠人 猪股正幸 吉賀亜希 三浦七菜子
		野村 歩 浅田武志 山本能寛 吉田麻子 目黒重治	姫野 恵 杉山真知子
			尾澤 勉
			芸術主幹
			西川彰一

団友

	チェロ	オーボエ	トランペット	瀬戸川 正 百瀬和紀	事務局
田中 裕 鶴我裕子 徳永二男	岩井雅音	青山聖樹	井川明彦		稲川 洋
名譽コンサート マスター	中瀬裕道 永峰高志 根津昭義	木越 洋 齋藤鶴吉 三戸正秀	北村源三 米馬 賢 関山幸弘	ピアノ	入江哲之 金沢 孝 小林文行
堀 正文	堀 伝 銅銀久弥	茂木大輔	津堅直弘	本荘玲子	清水永一郎
ヴァイオリン	堀江 悟 前澤 均 宮里親弘	丹羽経彦 平野秀清	柘本浩規 福井 功 佛坂咲千生	理事長	関 照枝 中馬 究 出口修平
板橋 健 梅澤美保子 海野義雄 大澤 浄 大林修子 大松八路 金田幸男 川上朋子 川上久雄 窪田茂夫 黒柳紀明 公門俊之 齋藤真知理 酒井敏彦 清水謙二 鈴木弘一 武内智子 田渕 彰	武藤伸二 村上和邦 山口裕之 蓬田清重	藤井 晃 藤本英雄 茂木新緑	クラリネット	野島直樹 日向英実 木田幸紀 森 茂雄 今井 環 根本佳則	西村集介 芳賀由明 松崎ユリ 望戸一男 諸岡 淳 吉田博志 渡辺 克 渡辺克己
	コントラバス	ファゴット	トロンボーン	伊藤 清 神谷 敏 栗田雅勝 関根五郎 三輪純生	
	ヴィオラ	井戸田善之 志賀信雄 田中雅彦 中 博昭 佐川裕昭 新納益夫	ホルン	テューバ	役員
	ヴァイオリン	大久保淑人 小野富士 梯 孝則 河野昌彦 菅沼準二 店村眞積 田渕雅子 中竹英昭 三原征洋 村山 弘 宮本明恭	大野良雄 田村 宏 中島大之 樋口哲生 松崎 裕 山田桂三 山本 真	加納民夫 唐木田信也 齊藤 滋 関川精二 鳴嶋郁夫 原 武 山崎大樹	
	フルート	菅原 潤 細川順三 宮本明恭	打楽器	有賀誠門 岡田知之	

フィルハーモニー2023年9月号 | 第95巻 第6号

2023年9月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49

TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278

発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (財)NHK財団

取材・編集: (株)アルテスパブリッシング

表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず

骨董・古美術月刊誌「目の眼」

いいものに出会ふと

自分の命を拾った思ひがある

川端康成

9月号 | 発売中

珠洲と越前

日本海を渡った古窯

10月号 | 9/15 発売

経塚違宝

平安時代からのタイムカプセル

毎月 15 日発売 | 1,650 円税込



最新号 WEB 無料公開中
menomeonline.com



The 20th
Anniversary

NHK 音楽祭

MUSIC FESTIVAL

～名曲と出会う場所～

2023

MEET the CLASSICS

巨匠フェドセーエフが
悠揚迫らざるテンポで描く、
チャイコフスキーの名曲を
5年ぶりに全曲演奏！



© Oleg Nachinkin

11月20日(月)
19:00開演

共催：NHK交響楽団
協賛：岩谷産業

NHK交響楽団

指揮：ウラディーミル・フェドセーエフ

児童合唱：東京少年少女合唱隊

チャイコフスキー/
バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71 全曲



写真提供：NHK交響楽団



© Laura Stevens



9年ぶりの来日！新音楽監督 天才シャニとともに
伝統の音色が響き、ここを播さざる

11月23日(木・祝)
16:00開演

イスラエル・ フィルハーモニー 管弦楽団

指揮：ラハフ・シャニ

バイオリン：庄司紗矢香

ツヴィ・アブニ／祈り

ベートーベン／
バイオリン協奏曲 二長調 作品61

ベートーベン／
交響曲第7番 一長調 作品92



好評発売中

NHKホール

入場料(消費税込)

※予定枚数終了 残席わずか ※売り切れの際はご容赦ください

公演	公演日	開演	観覧 予定	SS席	S席	A席	B席	C席	D席	U-25席
NHK交響楽団	11/20(月)	19:00	21:00	10,000	8,500	7,000	5,500	4,500	3,000	1,500
イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団	11/23(木・祝)	16:00	18:00	21,000	18,000	12,000	8,000	6,000	4,500	2,000

割引チケットのご案内
(SS席～B席対象) 同時に2公演お申込みいただいた場合、料金が5%割引になります。取り扱いは、NHKプロモーションの「インターネット受付」電話予約のみです。詳しくは、NHKプロモーションまでお問い合わせください。



●お問い合わせ

ハローダイヤル 050-5541-8600 / 9:00～20:00(無休)
NHKホームページ <http://nhk.jp/event>

NHKプロモーション

音楽祭係 TEL. 03-3468-7736 / 平日11:00～17:00
<https://www.nhk-p.co.jp/>

主催：NHK、NHKプロモーション

協賛：Canon キヤノンマーケティングジャパン

MIZUHO みずほ銀行

N響第九

Special Concert

2023年12月27日(水) 7:00pm

サントリーホール

Wednesday, December 27, 2023 Suntory Hall

バッハ／18のライプチヒ・コラール ―「装いせよ、おお、愛する魂よ」BWV654

Bach 18 Chorales, *Leipziger Chorale* — *Schmücke dich, o liebe Seele*, BWV654

オルガン: 勝山 雅世

Masayo Katsuyama, organ

バーバー／弦楽のためのアダージョ

Barber Adagio for Strings

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調

作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, *Choral*

指揮: 下野 竜也
Tatsuya Shimono, conductor

合唱: 新国立劇場合唱団

New National Theatre Chorus, chorus

一般: S ¥17,500 A ¥14,500 B ¥11,500 C ¥8,000

ユースチケット(25歳以下):

S ¥8,750 A ¥7,250 B ¥5,750 C ¥4,000

※全て税込価格

発売開始: 10月9日(月・祝) 10:00am

N響定期会員先行発売日: 10月3日(火) 10:00am

[定期会員は一般料金から10%割引]

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502 (営業日・
営業時間はN響ホームページでご確認ください)

前売券

- WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド 0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017
suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ pia.jp/t/nhkso
- e+(イープラス) eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット l-tike.com/nhkso



ソプラノ: 中村 恵理
Eri Nakamura,
soprano



メゾソプラノ 脇岡 彩
Aya Wakizono,
mezzo soprano



テナー: 村上 公太
Kota Murakami,
tenor



バス: 河野 鉄平
Teppei Kono,
bass

●ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引: 先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●早い着席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。●N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●未就学児のご入場はお断りしています。●公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

進化するめくもり。

BEETHOVEN

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響第9

NHK交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts

バーバー／弦楽のためのアダージョ
Barber Adagio for Strings

ベートーヴェン／
交響曲 第9番
二短調 作品125「合唱つき」
Beethoven Symphony No.9 D minor op.125, Choral

2023年
12/22 金 7:00 pm | 12/23 土 2:00 pm
12/24 日 2:00 pm | 12/26 火 7:00 pm*

NHKホール

*12月26日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです

チケット発売開始:
10月9日(月・祝)10:00am

N響定期会員先行発売日(26日公演をのぞく):

10月3日(火)10:00am

[定期会員は一般料金から10%割引、26日公演をのぞく]

料金(税込):

一般 S¥15,000 A¥12,000 B¥9,000 C¥6,500 D¥4,500

ユースチケット(25歳以下) S¥7,500 A¥6,000 B¥4,500 C¥3,250 D¥2,250



指揮
下野 竜也



ソプラノ
中村 恵理



メゾ・ソプラノ
脇園 彩



テノール
村上 公太



バス
河野 鉄平

合唱: 新国立劇場合唱団

前売所:

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>
N響ガイド 0570-02-9502

チケットぴあ pia.jp/t/nhkso/
e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso/
ローンチケット l-tike.com/nhkso

●ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。

●定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド(26日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください。●やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●未就学児のご入場はお断りしています。●公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ
N響ガイド: 0570-02-9502
(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

NHK厚生文化事業団: 03-3476-5955
(26日公演のみ、平日10:00am~6:00pm)

主催: NHK/NHK交響楽団
主催(26日): NHK/NHK厚生文化事業団

協賛: みずほ証券株式会社
はごろもフーズ株式会社
株式会社明電舎

SYMPHONY No.9

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2023年5月現在、自社調べ)

Iwatani

岩谷産業株式会社